

健康すいた 2 1（第 2 次） 分野別評価

■本資料の趣旨

第2次計画（計画期間：H28年～R3年）の評価を行い、第3次計画につなげることを目的とし、分野別に以下の視点でまとめています。

- ①取組の全体像
- ②指標別の評価及び全体の総括評価
- ③今後の課題

参考：①取組の全体像は、第2次計画の 第4章「吹田市健康増進計画の分野別取組」
第5章「吹田市食育推進計画の分野別取組」の《今後の取組》に記載する視点に沿って整理。
なお、各取組は以下の情報から抜粋した。

・市の取組：第4章・第5章に掲載する「市の主な事業内容」

R3年5月庁内照会 健康すいた21（第2次）の評価及び次期計画策定に係る調査について

・地域団体の取組：R3年6月 第1回健康すいた21推進懇談会回答

■第2次計画における取組分野



■評価の見方

- ・評価指標の各項目についてA～D（評価不能—）で評価しています。（表1）
- ・分野の総合評価については、各項目の評価点数において、得られた評価項目の合計点数が、各分野における総点数（3点×評価項目数）に占める割合に応じて、決定しています。（表2）

表1 評価指標の評価基準

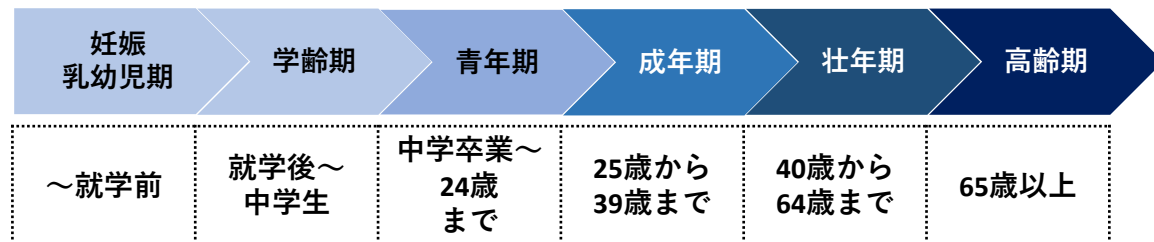
A	実績値が目標値に達している。	4点
B	策定時と比較し、実績値の方が目標値に近づいている	3点
C	策定時と比較し、実績値の変化がない。	2点
D	策定時と比較し、実績値の方が目標値から離れている	1点
—	参考となる実績値がないため、評価困難	

表2 各分野の総合評価の評価基準

A（目標達成）	総評価点数の9割以上の点数
B（改善傾向）	総評価点数の6割以上9割未満
C（現状維持）	総評価点数の5割以上6割未満
D（悪化傾向）	総評価点数の5割未満
—（評価困難）	参考となる実績値がないため、評価困難

■ライフステージの区分

第2次計画では、以下のライフステージの区分としていましたが、「吹田市健康に関する市民意識アンケート調査2019」のライフステージ区分に基づき、本資料は作成しています。



参考：第2次計画のライフステージ区分

- 妊娠・乳幼児期：就学前まで
- 学齢期：小学生から高校生相当まで★
- 成年期：高校卒業相当から39歳まで★
- 壮年期：40歳から64歳まで
- 高齢期：65歳以上

資料の構成と見方

- (1) 第2次計画期間の取組
- (2) 評価指標・評価指標の経年推移
- (3) 分野別の現状課題

(1) 第2次計画期間の取組

第2次計画に掲載の
分野別の目標を記載

第2次計画に掲載の
分野別の
《今後の取組》を
カテゴリー化

(1) 第2次計画期間（H28～R3）の取組

めざすところ：おいしくバランスよく食事ができる
・栄養や食生活についての正しい知識や情報を持つ。
・朝食の欠食を減らし、栄養バランスのよい食事をする。

「市の取組」と
「地域団体の取組（健康
すいた21推進懇談会委員
が所属する団体）」を
分けて掲載

1 栄養食生活

市の取組

地域団体の取組



(2) 評価指標・評価指標の経年推移

第2次計画の 分野別 評価指標

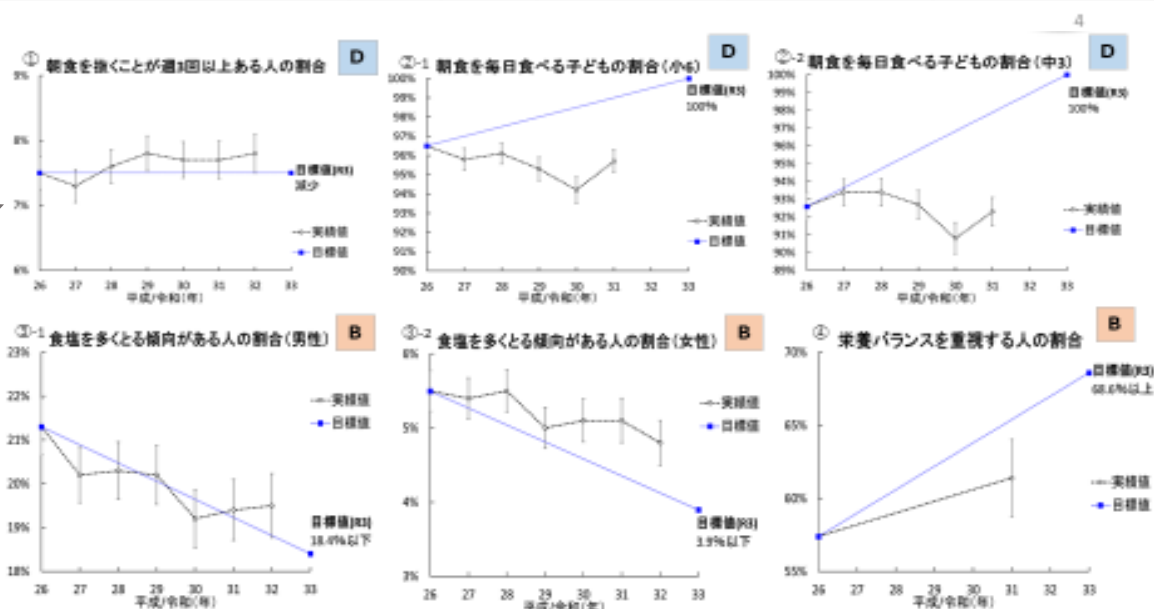
		H25 (策定時)	目標値	H29 (中間評価)		R1 (進捗評価)		R2 (最終評価)	
				実績値	評価	実績値	評価	実績値	評価
①	朝食を抜くことが週3回以上ある人の割合	7.5%	減少	7.8%	D	7.7%	D	7.8%	D
②	朝食を毎日食べる子どもの割合	小学6年生	96.5%	100%	95.3%	D	95.7%	D	—
		中学3年生	92.6%	100%	92.7%	B	92.3%	D	—
③	食塩を多くとる傾向がある人の割合	男 性	21.3%	18.4%以下	20.2%	B	19.4%	B	19.5%
		女 性	5.5%	3.9%以下	5.0%	B	4.6%	B	4.8%
④	食生活において栄養バランスを重視する人の割合	57.4%	68.6%以上	—	—	61.4%	B	—	—
分野の総合評価				C		C		C	

H26年の策定時と比較し、以下の3点での評価を掲載しています。

- ・ H29：中間
- ・ R1：進捗
- ・ R2：最終

※本来、最終評価はR1実績値で行う予定であったが、計画期間を1年延長したため、R2実績値が最終評価となる。ただし、R2実績値は本来最終評価年でないため、評価不能の指標が複数あり、扱いに注意が必要。

指標の推移を
グラフで
示しています。



グラフは、目標値に対する経年推移を示す。
・ 実践：第2次計画期間で達成をめざす目標値の推移。・ 折れ線：実績値の経年変化。

(3) 分野別の現状課題

(3) 分野の現状課題

主に、「吹田市健康に関する市民意識アンケート調査2019」より、各分野の現状課題をライフステージ別に整理

ア 市民意識アンケート調査等から見る現状

	全体	妊婦 乳幼児期	学齢期	青年期	成年期	壮年期	高齢期
1-1 適正体重の維持	女性の痩身の割合が大阪府、国よりやや高い					メタボ予備群(男性)	女性の痩身(低栄養)
1-2 栄養バランスを重視する人の割合	バランスのとれた食事をほぼ毎日食べる人の割合が大阪府より高い(69.6%)			バランスのとれた食事をほぼ毎日食べる割合が他の年代より低い(青年期55.3%、成年期50%)			
1-3 食塩摂取量の減少	約6割が塩分摂取を控えている			塩分摂取を控えている割合が低い 青年期29.5%成年期39.0%			
1-4 野菜摂取量の増加	現状把握できず						
1-5 朝食の欠食	大阪府と比較して朝食欠食率は低い		※2 約5%がほとんど食べていない	約10%がほとんど食べていない	前回調査より週3日以下の割合が顕化		

吹田市健康に関する市民意識アンケート調査2019結果報告書より

※1 大阪府健康増進部健康予防研究センター業務報告書

※2 平成24年度吹田市生活習慣病予防事業調査報告書

イ 分野において課題と言える部分

- # 女性（特に高齢者）のやせ
- # 壮年期のメタボ予備群（男性）
- # 青年期・成年期ではバランスのとれた食事を毎日食べる割合が低い
- # 学齢期・青年期の朝食欠食

健康日本21（第2次）で示す（※）目標達成の考え方をもとに、各分野の取組の視点を整理。

特に課題といえる部分を、
①第2次の評価指標及び②市民意識アンケート調査等からみる現状課題から総合的に整理。

第2次計画評価まとめ

(1) 分野別評価

H26年の現状値と比較し、中間評価・進捗評価・最終評価を踏まえると「栄養・食生活」「運動・身体活動」「健康管理」が現状維持若しくは悪化傾向であり、特に取り組むべき分野であると言える。

分野	中間 H29実績値	進捗 R1実績値	最終 R2実績値
栄養・食生活	C	C	C
たばこ	B	B	B
運動・身体活動	D	C	D
休養・こころの健康	B	B	B
歯と口腔の健康	B	B	B
アルコール	D	B	C
健康管理	B	C	D
食を通じた 豊かな人間形成	—	B	—

(2) 全体の評価結果

中間・進捗・最終評価は評価指標数が異なるため、扱いには注意が必要。なお、全ての評価指標が出揃っているR1実績値において（進捗評価）、「目標達成」と「改善傾向」を合わせると、全体の54.1%を占めている。

	中間 H29実績値	進捗 R1実績値	最終 R2実績値
目標達成	7(13.5%)	16(26.2%)	11(25.0%)
改善傾向	25(48.1%)	17(27.9%)	10(22.7%)
現状維持	1(1.9%)	4(6.6%)	2(4.5%)
悪化	19(36.5%)	24(39.3%)	21(47.7%)
評価指標数	52	61	44
評価不能	9	—	17

(1) 第2次計画期間 (H28～R3) の取組

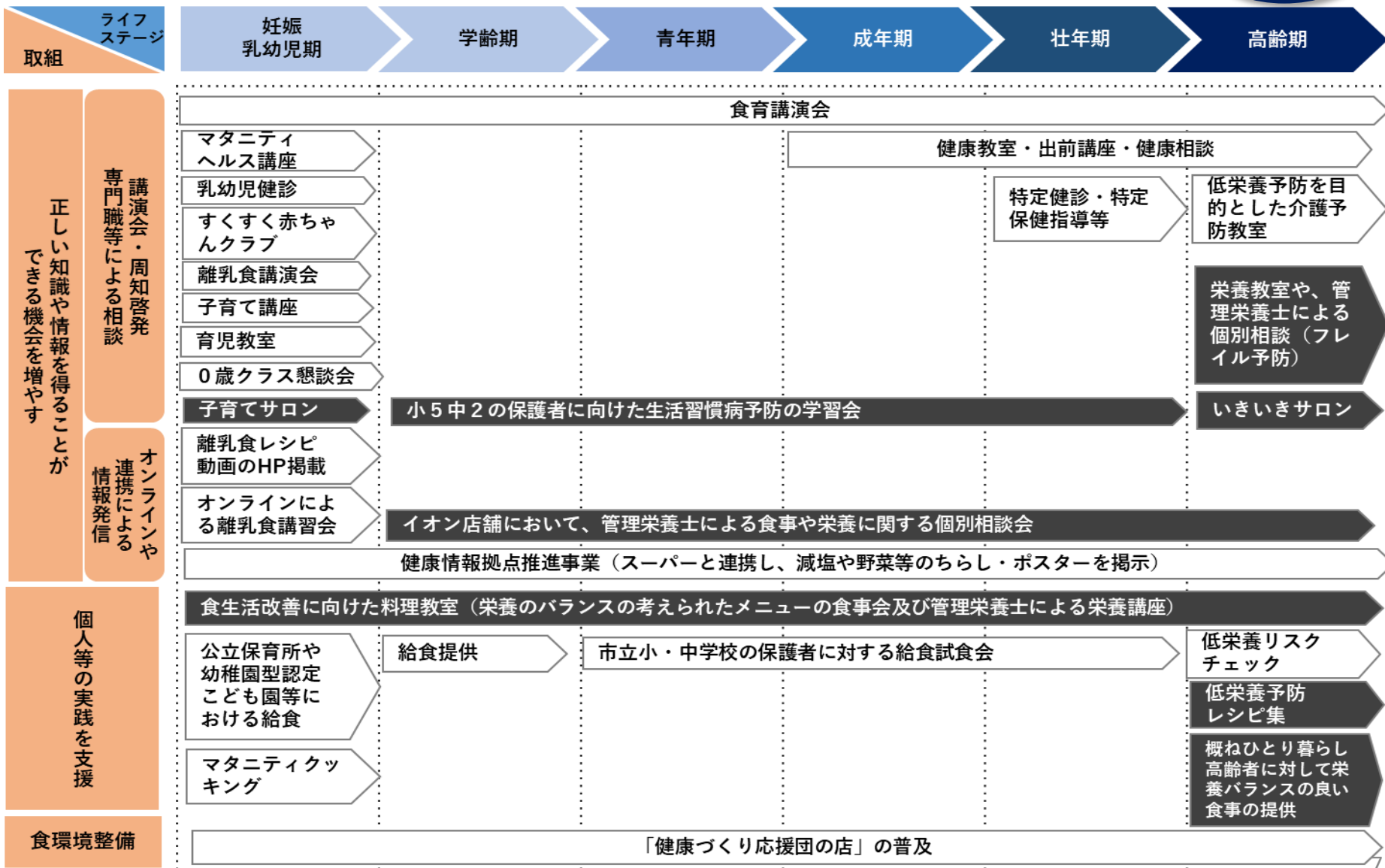
めざすところ：おいしくバランスよく食事ができる

- ・ 栄養や食生活についての正しい知識や情報を持つ。
- ・ 朝食の欠食を減らし、栄養バランスのよい食事をする。

市の取組

地域団体の取組

1 栄養食生活



(2-1) 評価指標



			H26 (策定時)	目標値	H29（中間評価）		R1（進捗評価）		R2（最終評価）	
					実績値	評価	実績値	評価	実績値	評価
①	朝食を抜くことが 週3回以上ある人の割合		7.5%	減少	7.8%	D	7.7%	D	7.8%	D
②	朝食を毎日食べる 子供の割合	小学6年生	96.5%	100%	95.3%	D	95.7%	D	—	—
		中学3年生	92.6%	100%	92.7%	B	92.3%	D	—	—
③	食塩を多くとる 傾向がある人の割合	男 性	21.3%	18.4% 以下	20.2%	B	19.4%	B	19.5%	B
		女 性	5.5%	3.9%以下	5.0%	B	4.6%	B	4.8%	B
④	食生活において栄養バランスを 重視する人の割合		57.4%	68.6%以上	—	—	61.4%	B	—	—

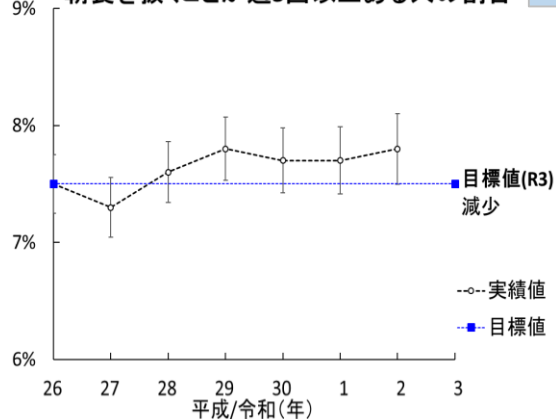
分野の総合評価			C	C	C
---------	--	--	---	---	---

(2-2) 評価指標経年推移

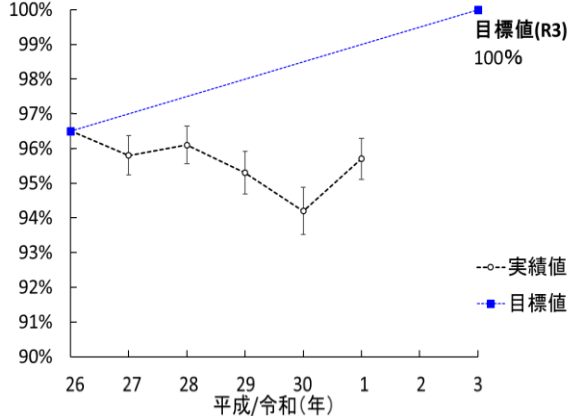
1 栄養食生活



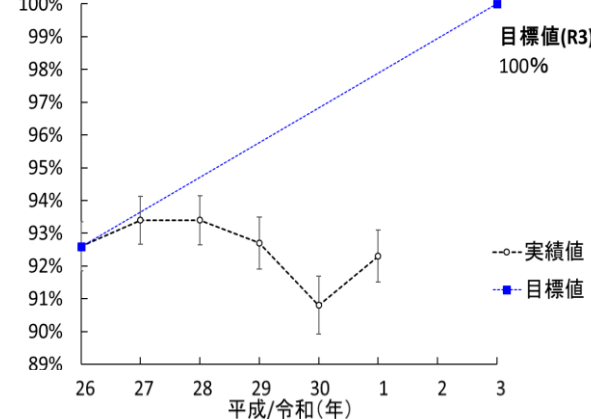
① 朝食を抜くことが週3回以上ある人の割合



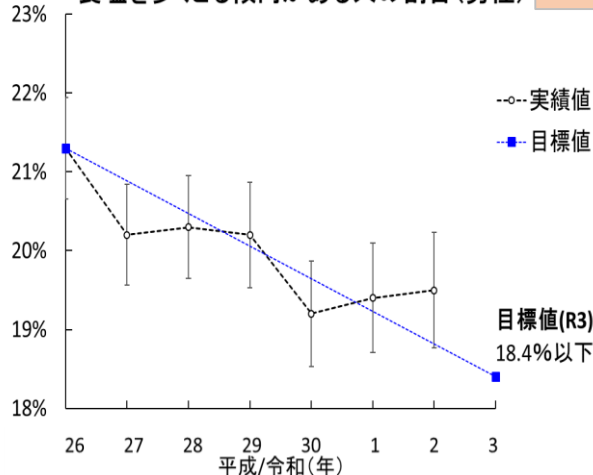
②-1 朝食を毎日食べる子供の割合(小6)



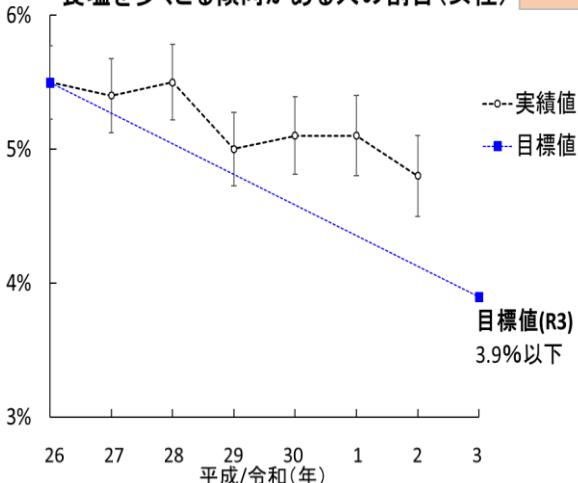
②-2 朝食を毎日食べる子供の割合(中3)



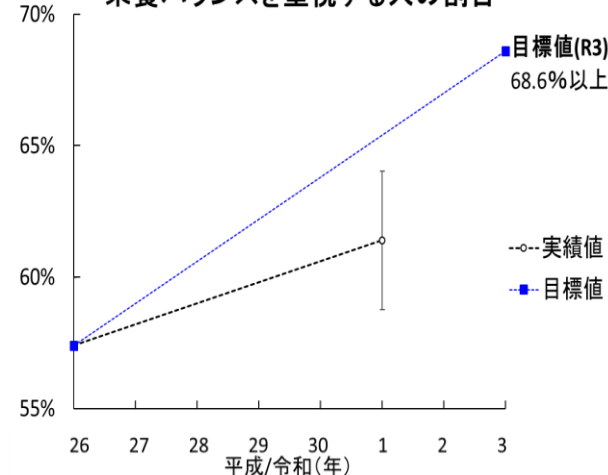
③-1 食塩を多くとる傾向がある人の割合(男性)



③-2 食塩を多くとる傾向がある人の割合(女性)



④ 栄養バランスを重視する人の割合



グラフは、目標値に対する経年推移を示す。

・実線：第2次計画期間で達成をめざす目標値の推移。・点線：実績値の経年変化。

(3) 分野の現状課題

1 栄養食生活



ア 市民意識アンケート調査等から見る現状

	全体	妊娠 乳幼児期	学齢期	青年期	成年期	壮年期	高齢期
1-1 適正体重の維持	女性の瘦身の割合が大阪府、国よりやや高い				※1	メタボ予備群(男性)	女性の瘦身(低栄養)
1-2 栄養バランスを重視する人の割合	バランスのとれた食事をほぼ毎日食べる人の割合が大阪府より高い(69.6%)			バランスのとれた食事をほぼ毎日食べる割合が他の年代より低い(青年期55.3%、成年期50%)			
1-3 食塩摂取量の減少	約6割が塩分摂取を控えている			塩分摂取を控えている割合が低い 青年期25.5%成年期39.0%			
1-4 野菜摂取量の増加	現状把握できず						
1-5 朝食の欠食	大阪府と比較して朝食欠食率は低い		※2 約5%がほとんど食べていない	約10%がほとんど食べていない	前回調査より週3日以下の割合が悪化		

吹田市健康に関する市民意識アンケート調査2019結果報告書より

※1 大阪府循環器疾患予防研究受託業務報告書

※2 H28吹田市子どもの生活に関する実態調査報告

イ 分野において課題と言える部分

- # 女性（特に高齢者）のやせ
- # 壮年期のメタボ予備群（男性）
- # 青年期・成年期ではバランスのとれた食事を毎日食べる割合が低い
- # 学齢期・青年期の朝食欠食

(1) 第2次計画 (H28～R3) の取組

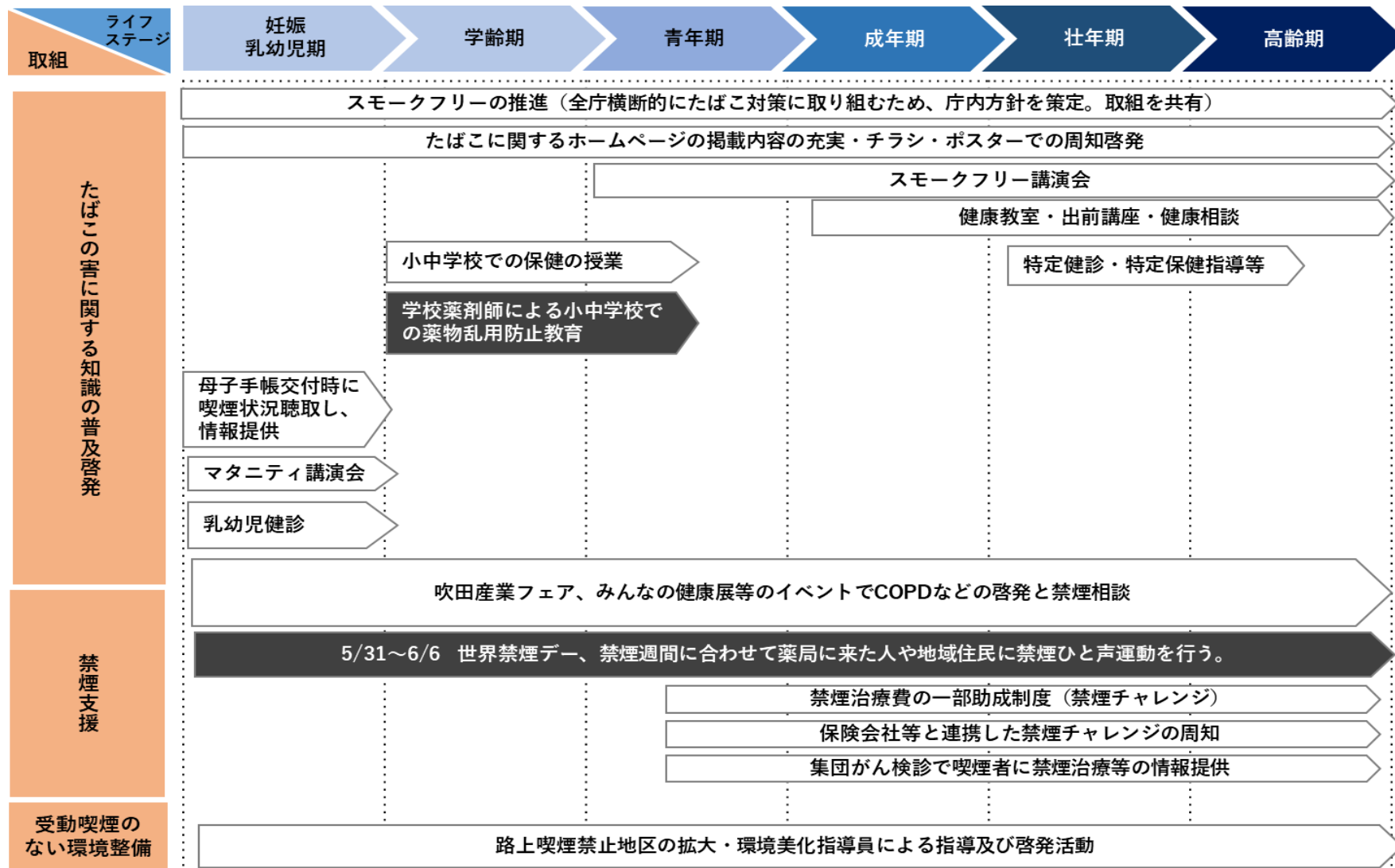
たばこの害を与えない、受けない

- ・たばこの害を知り、受動喫煙のない環境づくりに協力する。
- ・喫煙者は禁煙に挑戦し、未成年者や妊産婦は喫煙をしない。

市の取組

地域団体の取組

2 たばこ



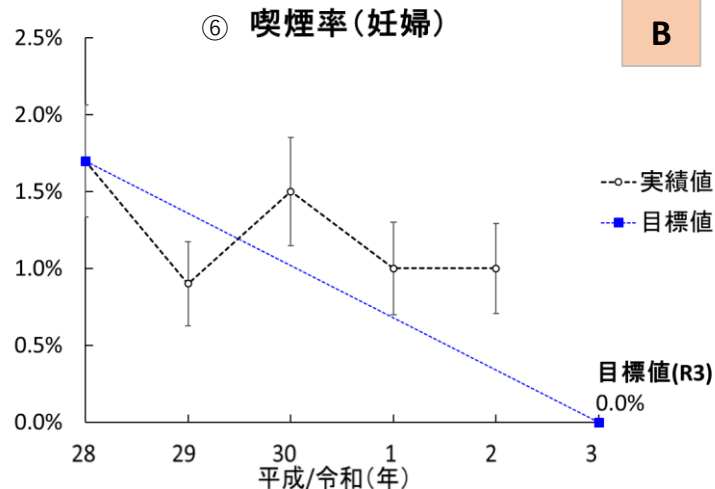
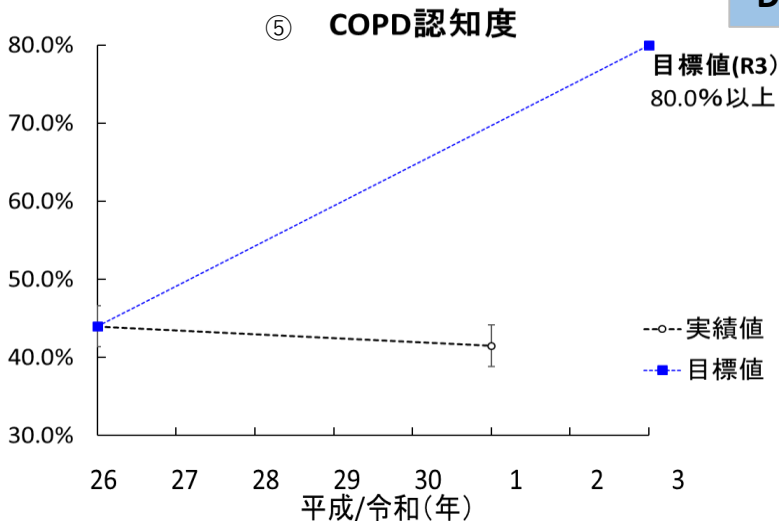
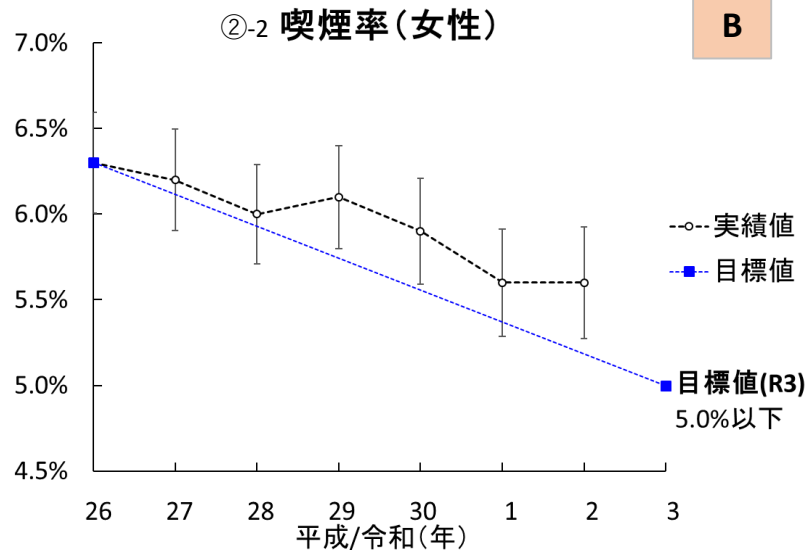
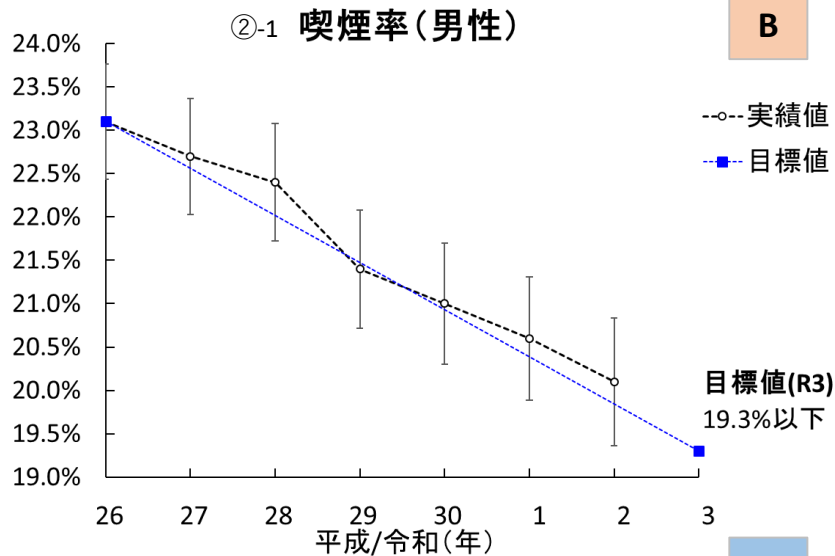
（２－１）評価指標



				H29（中間評価）		R1（進捗評価）		R2（最終評価）		
	評価指標		H26 （策定時）	目標値	実績値	評価	実績値	評価	実績値	評価
①	禁煙サポートを実施している 医療機関数		43機関	増加	47機関	A	49機関	A	51機関	A
②	喫煙率	男 性	23.1%	19.3% 以下	21.4%	B	20.6%	B	20.1%	B
		女 性	6.3%	5.0% 以下	6.1%	B	5.6%	B	5.6%	B
③	禁煙相談者数		202人	増加	465人	A	377人	A	204人	A
④	市施設での禁煙実施率		99.4%	100.0%	99.4%	C	99.4%	C	99.4%	C
⑤	C O P Dの認知度		44.0%	80.0% 以上	—	—	41.5%	D	—	—
⑥	妊婦の喫煙率		—	0.0%	0.9%	B	1.0%	B	1.0%	B

分野の総合評価			B	B	B
---------	--	--	---	---	---

(2-2) 評価指標経年推移



グラフは目標値に対する経年推移を示す。

・実線：第2次計画期間で達成をめざす目標値の推移。・点線：実績値の経年変化。



(3) 分野に関する現状課題

ア 市民意識アンケート調査等から見る現状

	全体	妊娠 乳幼児期	学齢期	青年期	成年期	壮年期	高齢期
2-1 喫煙率の減少	男性の17%が喫煙者。 喫煙者のうち、新型たばこ 利用者が3割を占める。			※ 1	40～50歳代の喫煙率が最も 高い。保険者別でみると、 協会けんぽ加入者が高い。		
2-2 未成年の喫煙	現状把握できず						
2-3 妊婦の喫煙		喫煙率1% 前後で推移					
2-4 COPDの認知度	認知度41.5% 半数以上が認知なし						
2-5 禁煙支援	喫煙者のうち、 禁煙に関心がある者が 半数を占める 禁煙外来の認知度は59%。 喫煙者のうち、約20%が 認知なし。						
2-6 受動喫煙防止対策	路上での受動喫煙						

吹田市健康に関する市民意識アンケート調査2019結果報告書より
※ 1 大阪府循環器疾患予防研究受託業務報告書 医療費分析 (H28)

イ 分野において課題と言える部分

就労世代の喫煙
COPDの認知度

(1) 第2次計画 (H28～R3) の取組

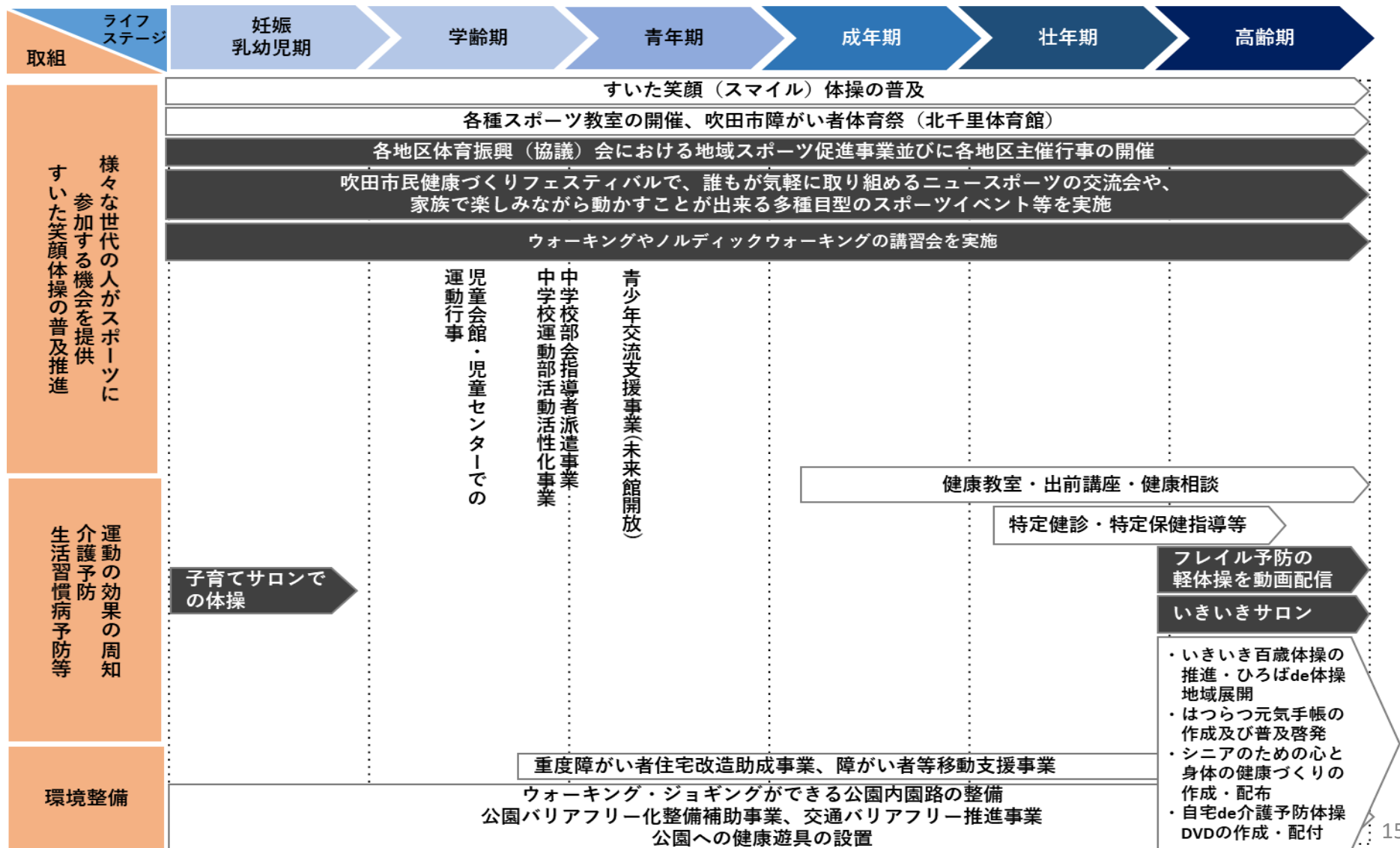
日常生活の中で体を動かし、自分にあった運動を楽しむ

- ・意識的に体を動かしたり、自分にあった運動習慣を身に付ける。
- ・生活習慣病やロコモティブシンドロームの予防など、運動の効果を知っている。

市の取組

地域団体の取組

3 運動身体活動





(2-1) 評価指標

			H26 (策定時)	目標値	H29 (中間評価)		R1 (進捗評価)		R2 (最終評価)	
					実績値	評価	実績値	評価	実績値	評価
①	定期的に運動（1日30分以上の汗をかく運動を週2回以上、1年以上実施）している人の割合	男 性	39.3%	41.3%以上	38.8%	D	38.8%	D	38.5%	D
		女 性	31.1%	36.1%以上	30.7%	D	30.1%	D	30.7%	D
②	短い距離（徒歩10分）なら歩く人の割合	男 性	83.8%	84.5%以上	83.7%	D	84.4%	B	83.7%	D
		女 性	81.5%	82.4%以上	81.1%	D	78.2%	D	81.7%	B
③	中学校の運動クラブ参加者の割合		63.3%	75.1%	63.8%	B	62.5%	D	58.9%	D
④	ロコモティブシンドロームの認知度		30.3%	80.0%以上	—	—	38.3%	B	—	—
⑤	運動やスポーツが好きな子供の割合	小学5年生	88.2%	94.0%以上	87.9%	D	89.2%	B	—	—
		中学2年生	81.9%	90.7%以上	80.6%	D	82.7%	B	—	—

分野の総合評価

D

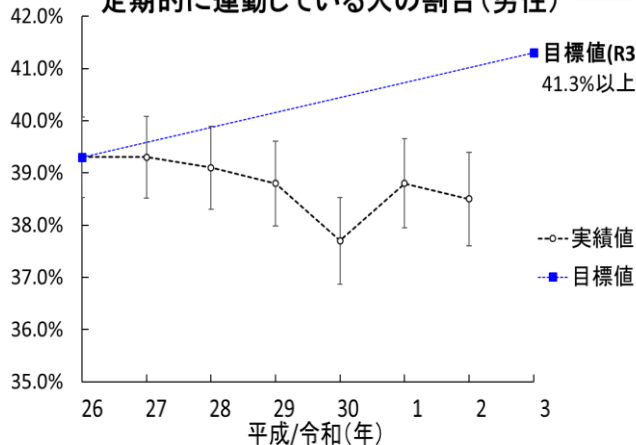
C

D

(2-2) 評価指標経年推移

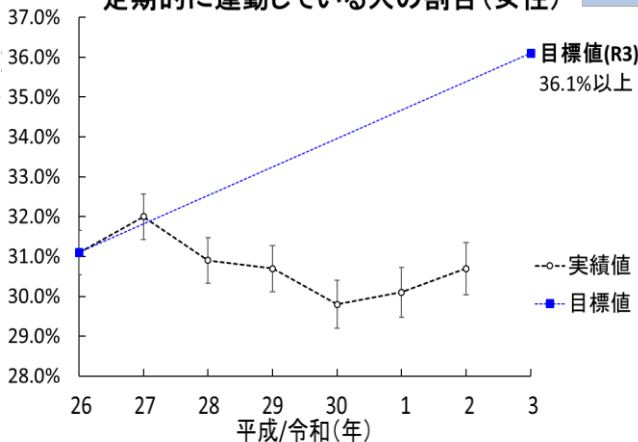
①-1 定期的に運動している人の割合(男性)

D



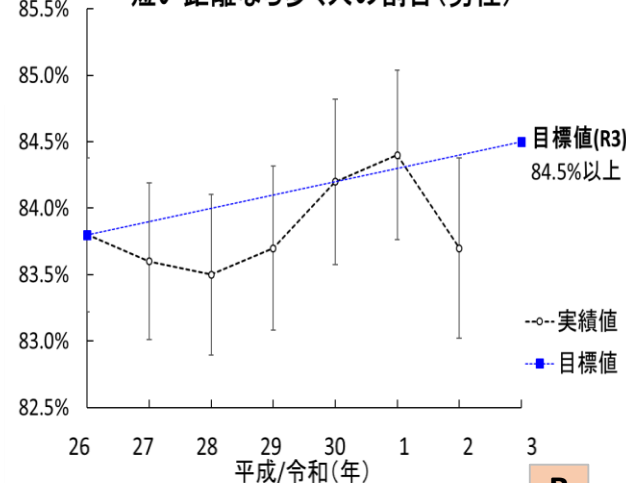
①-2 定期的に運動している人の割合(女性)

D



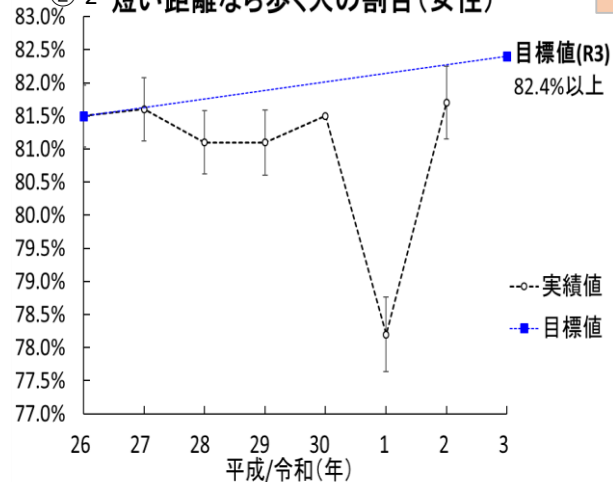
②-1 短い距離なら歩く人の割合(男性)

D



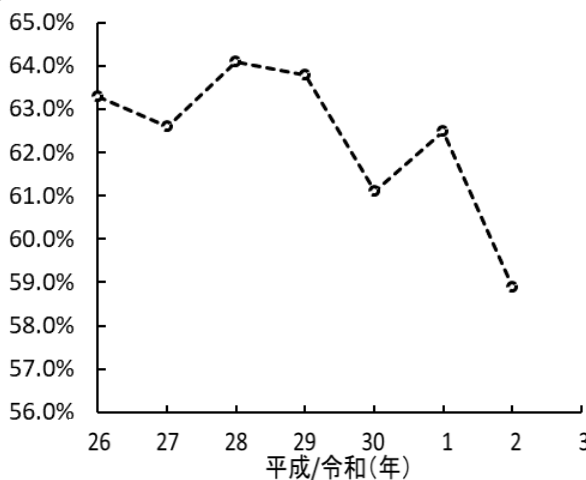
②-2 短い距離なら歩く人の割合(女性)

B



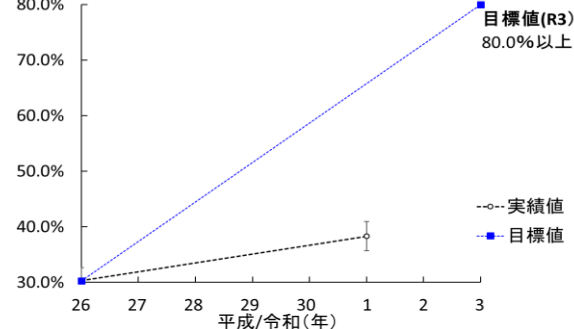
③ 中学校の運動クラブ参加者の割合

D



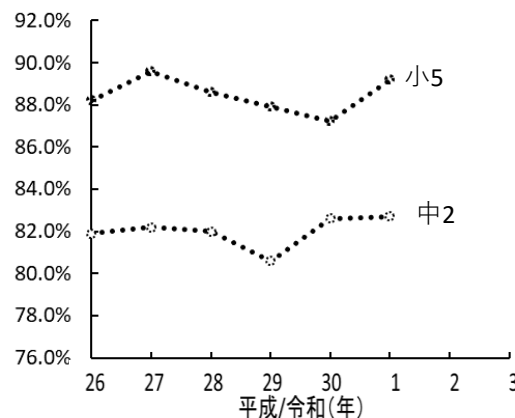
④ ロコモティブシンドローム認知度

B



⑤ 運動やスポーツが好きな子供の割合

B



グラフは、目標値に対する経年推移を示す。

- ・ 実線：第2次計画期間で達成をめざす目標値の推移。
- ・ 点線：実績値の経年変化。

(3) 分野に関する現状課題

3 運動身体活動



ア 市民意識アンケート調査等から見る現状

	全体	妊娠 乳幼児期	学齢期	青年期	成年期	壮年期	高齢期
3-1 日常生活における歩数の増加	現状把握できず						
3-2 運動習慣のある者の割合の増加	1日30分以上の運動について40%の者がほとんどしていないと回答（特に女性） 大阪府と比較して運動習慣がある者の割合が低い			20、30歳代の50%以上が「ほとんどしていない」と回答			60歳以上では「週に1回以上」の割合が50%を超える
3-3 運動習慣のある子供の割合の増加			1日30分以上の運動を週2日以上が55.7% 年齢があがるにつれて「ほとんどしていない」の割合が増える。				
3-4 ロコモの認知度	認知度が38%と低い					ロコモ予防が必要な層であるが、半数以上が言葉を知らない	
3-5 運動しやすい環境づくり	現状把握できず						

吹田市健康に関する市民意識アンケート調査2019結果報告書より

イ 分野において課題と言える部分

ほとんど運動していない割合が高い（特に女性、20～30歳代）

(1) 第2次計画 (H28～R3)

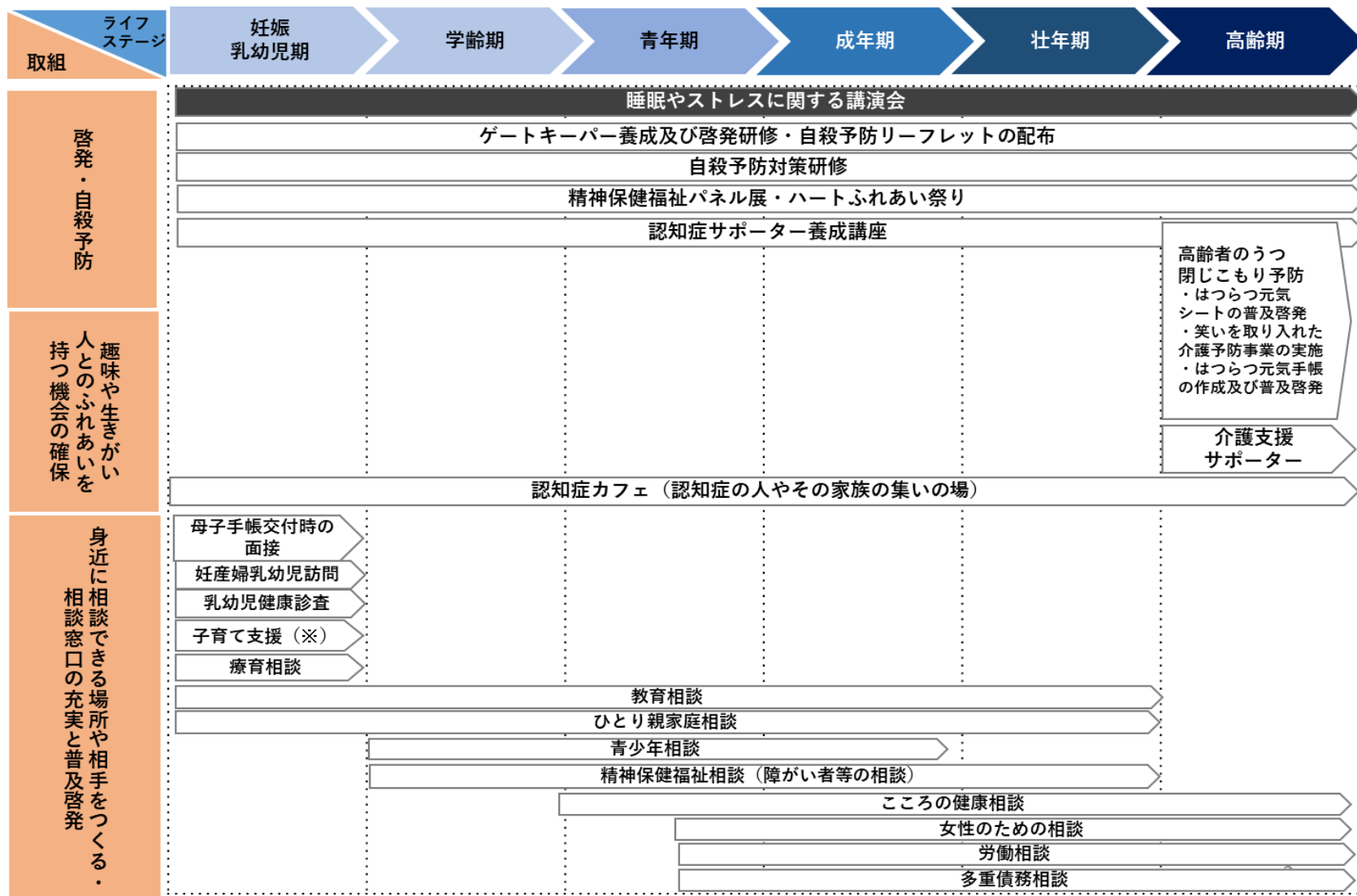
自分のこころの状態を知り、ストレスを解消できる

- ・睡眠による休養が十分にとれている。
- ・自分にあったストレスの解消方法を知っている。
- ・悩みを相談する人がいたり、解決につなげられる相談窓口を知っている。

市の取組

地域団体の取組

4 休養
こころの健康



(※) 子育て相談、園庭・ホール開放、子育てサークルの支援、育児教室子育て広場、ファミリーサポートセンターの推進など

(2-1) 評価指標



			H26 (策定時)	目標値	H29 (中間評価)		R1 (進捗評価)		R2 (最終評価)	
					実績値	評価	実績値	評価	実績値	評価
①	ストレスを常にかけている人の割合	男 性	6.0%	5.4%以下	5.8%	B	6.7%	D	5.9%	B
		女 性	9.5%	8.5%以下	9.4%	B	9.2%	B	9.3%	B
②	睡眠時間を規則正しく取れる人の割合		85.9%	86.2%以上	84.5%	D	86.7%	A	86.2%	A
③	自殺者数		45人	40人以下	33人	A	45人	C	47人	D
④	自己肯定感のある子供の割合	小学6年生	79.1%	89.6%以上	79.4%	B	83.1%	B	—	—
		中学3年生	65.6%	82.8%以上	69.0%	B	73.1%	B	—	—

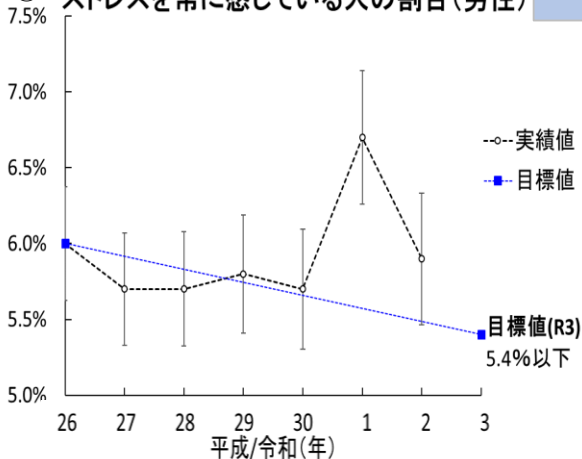
分野の総合評価			B	B	B
---------	--	--	---	---	---

(2-2) 評価指標経年推移

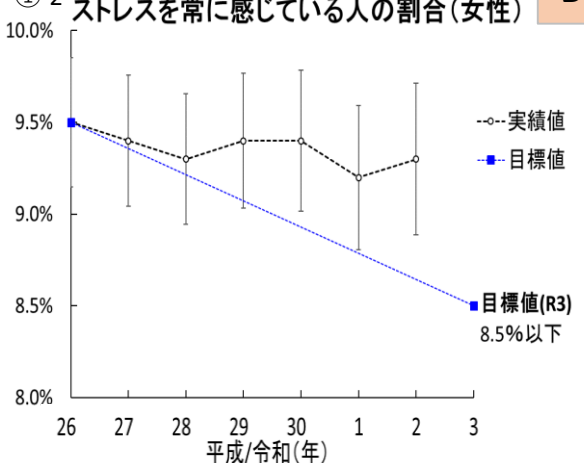
4 休養
こころの健康



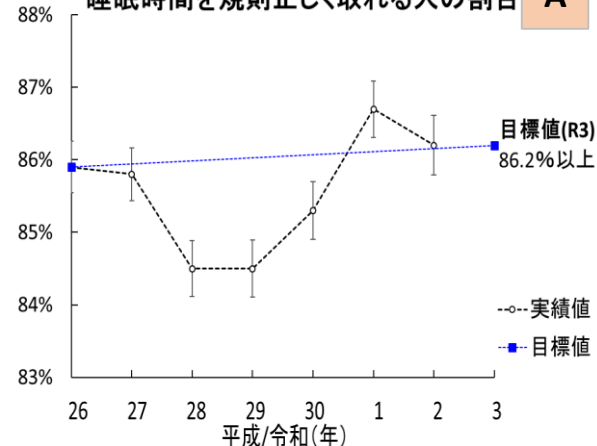
①-1 ストレスを常に感じている人の割合(男性) **D**



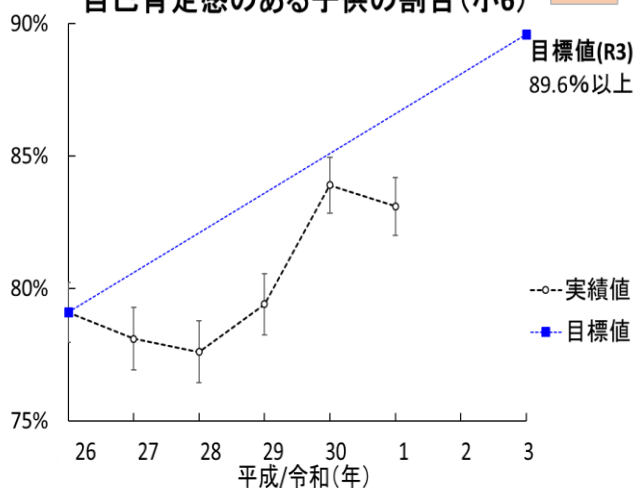
①-2 ストレスを常に感じている人の割合(女性) **B**



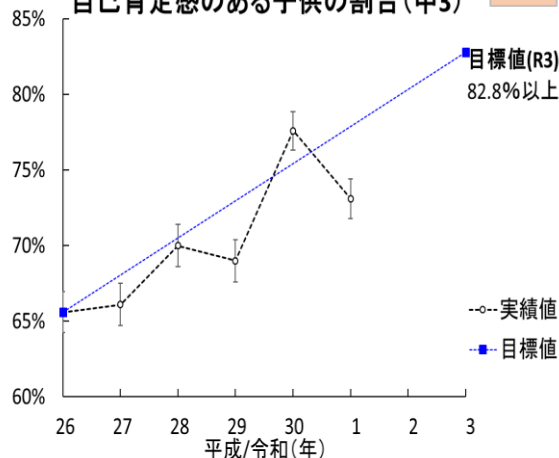
② 睡眠時間を規則正しく取れる人の割合 **A**



④-1 自己肯定感のある子供の割合(小6) **B**



④-2 自己肯定感のある子供の割合(中3) **B**



グラフは目標値に対する経年推移を示す。

- ・ 実線：第2次計画期間で達成をめざす目標値の推移。
- ・ 点線：実績値の経年変化。

(3) 分野に関する現状課題

4 休養
こころの健康



ア 市民意識アンケート調査等から見る現状

	全体	妊娠 乳幼児期	学齢期	青年期	成年期	壮年期	高齢期
4-1 自殺者の減少			※1 20歳未満の 自殺死亡率が 全国より高い。		全国と比べ、「自営業・家族 従業者」の自殺者割合が高い。		高齢者の 自殺数が多い。
4-2 ストレスを常に 感じている人の割合	男女とも約30%が 「解消できていない」 と回答					ストレスを解消できて いない割合が高い (成年期：35.3%、 壮年期：33.8%)	
4-3 睡眠による休養	「規則正しくない」が 23.2%である。			「規則正し くない」が 36.1%			

吹田市健康に関する市民意識アンケート調査2019結果報告書より

※1 吹田市自殺対策計画

イ 分野において課題と言える部分

- # 男女とも約30%がストレスを「解消できていない」（特に成年期・壮年期）
- # 睡眠で「規則正しくない」が2割を超える（特に青年期）

(1) 第2次計画期間 (H28～R3) の取組

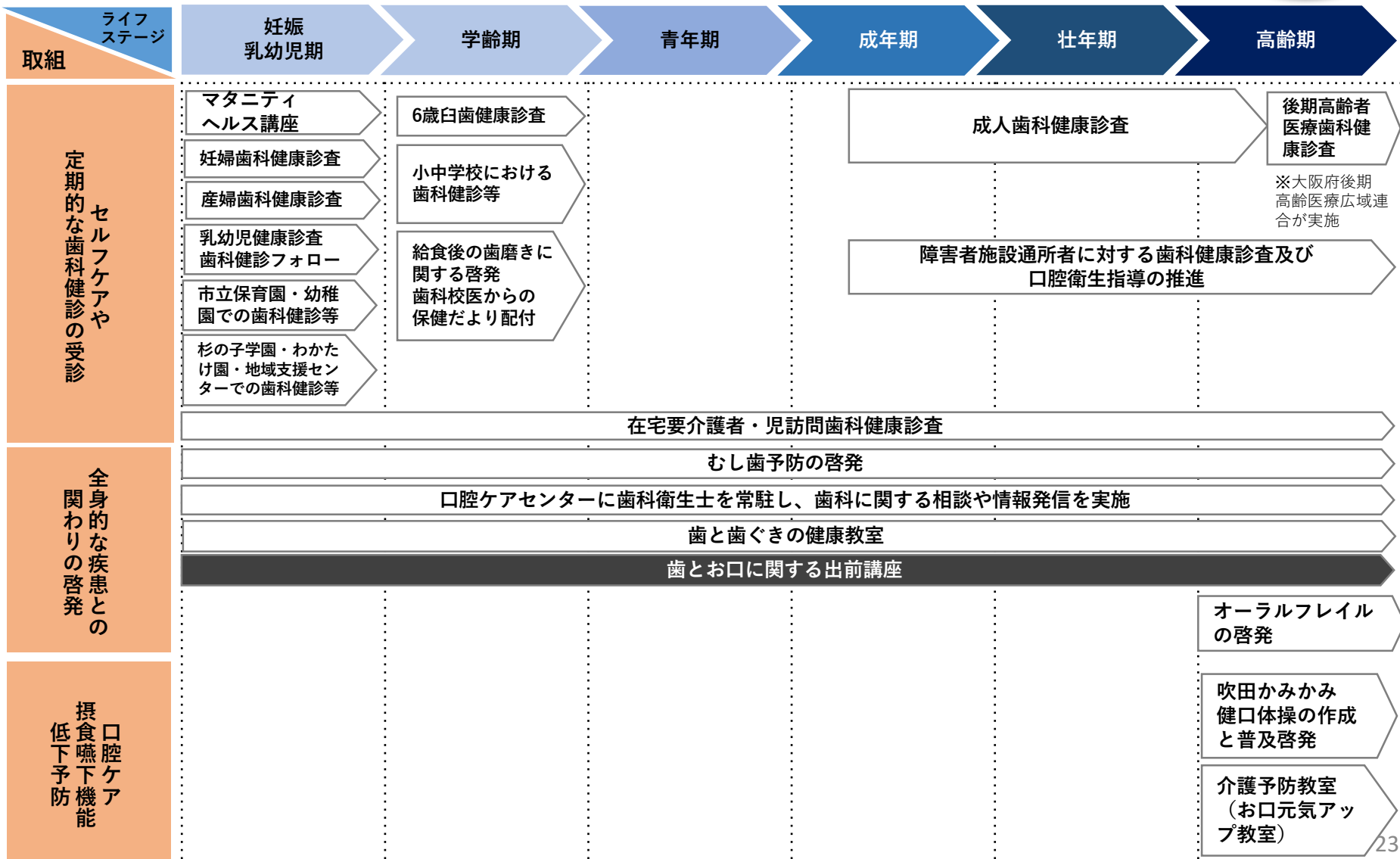
めざすところ：いつまでも自分の歯で噛むことができる

- ・ 歯の大切さと自分にあった口腔ケアの方法を知っている。
- ・ 噛むことの効果を知り、よく噛んで食べることを意識する。

市の取組

地域団体の取組

5 歯と口腔
の健康



(2-1) 評価指標

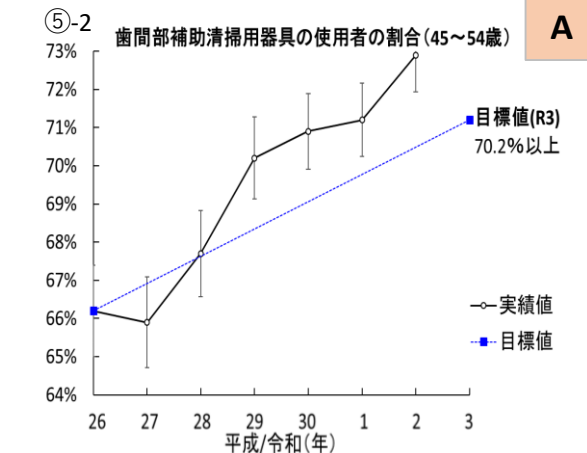
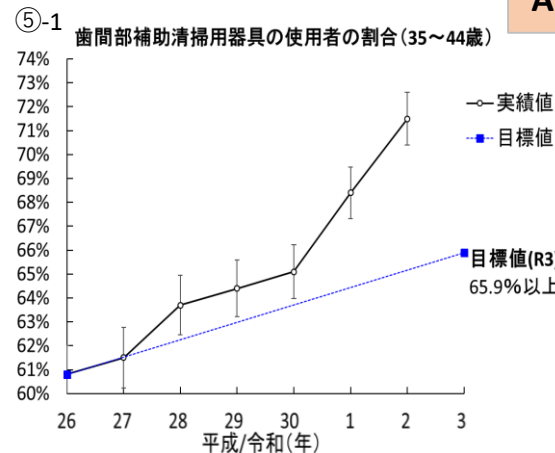
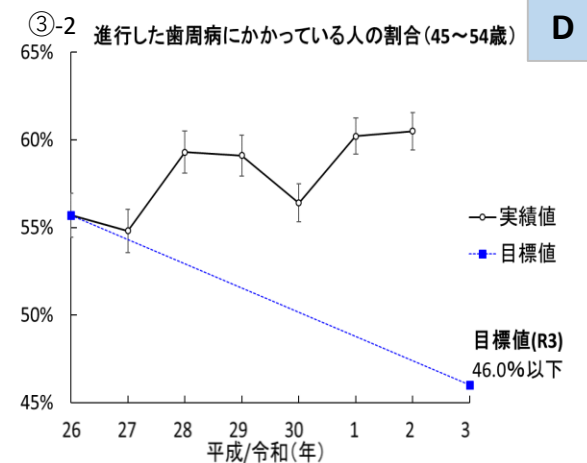
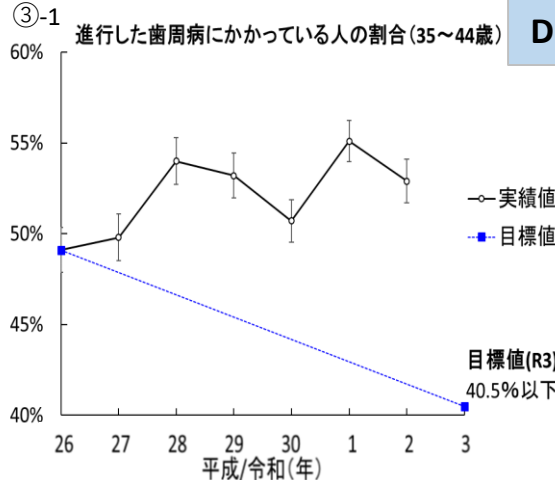
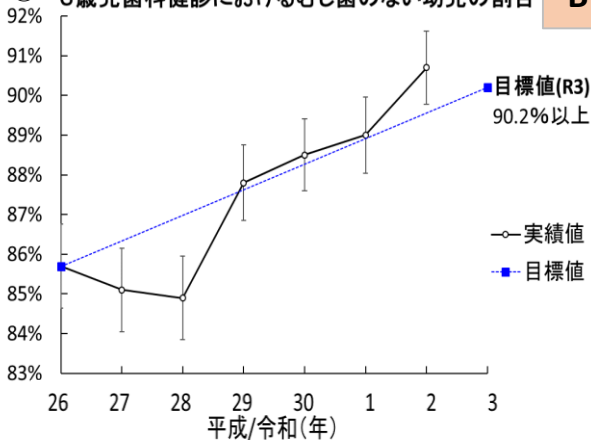


			H26 (策定時)	目標値	H29 (中間評価)		R1 (進捗評価)		R2 (最終評価)	
					実績値	評価	実績値	評価	実績値	評価
①	3歳児歯科健診におけるむし歯のない 幼児の割合		85.7%	90.2%以上	88.5%	B	89.0%	B	90.7%	A
②	12歳(中学1年生)における永久歯の むし歯経験歯数		0.88本	0.65本以下	0.74本	B	0.58本	A	0.58本	A
③	成人歯科健診における進行 した歯周病にかかっている 人の割合	35～44歳	49.1%	40.5%以下	50.7%	D	55.1%	D	52.9%	D
		45～54歳	55.7%	46.0%以下	56.4%	D	60.2%	D	60.5%	D
④	80歳で20歯以上の自分の歯を有する人の 割合		65.8%	75.5%以上	—	B	68.6%	B	69.4%	B
⑤	歯間部補助清掃用器具の 使用者の割合(歯間ブラシ 若しくはデンタルフロス 使用者の割合)	35～44歳	60.8%	65.9%以上	65.1%	B	68.4%	A	71.5%	A
		45～54歳	66.2%	70.2%以上	70.9%	A	71.2%	A	72.9%	A
⑥	75歳以上で口腔機能の維持向上の方法 を知っている人の割合		—	11.3%以上	—	B	15.3%	A	12.4%	A
⑦	食生活においてよく噛むことを 重視している人の割合		28.40%	39.2%以上	—	—	26.6%	D	—	—

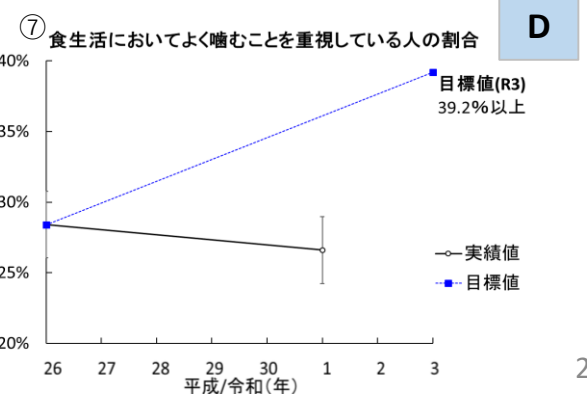
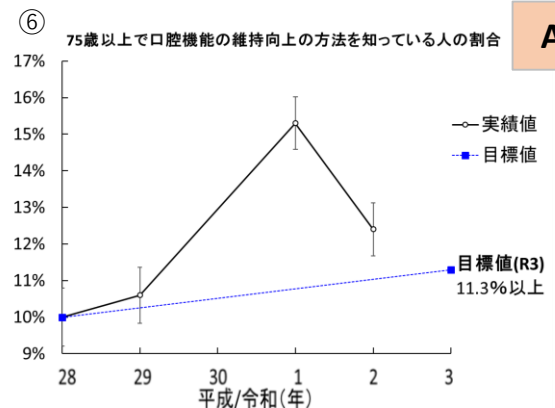
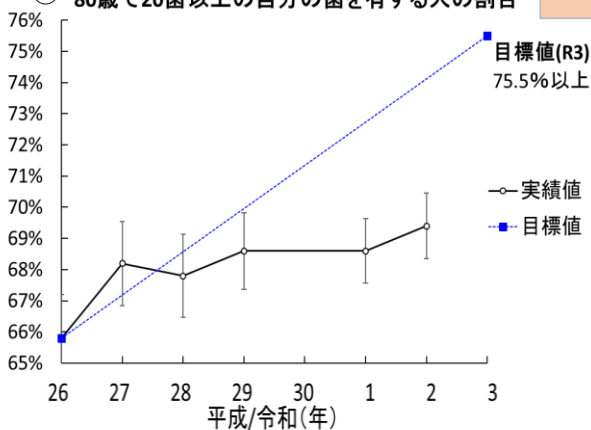
分野の総合評価			B	B	B
---------	--	--	---	---	---

(2-2) 評価指標 経年推移

① 3歳児歯科健診におけるむし歯のない幼児の割合 **B**



④ 80歳で20歯以上の自分の歯を有する人の割合 **B**



グラフは、目標値に対する経年推移を示す。
 ・実線：第2次計画期間で達成をめざす目標値の推移。
 ・点線：実績値の経年変化。

(3) 分野に関する現状課題



ア 市民意識アンケート調査等から見る現状

	全体	妊娠 乳幼児期	学齢期	青年期	成年期	壮年期	高齢期
5-1 歯の喪失防止	現状把握できず						
5-2 歯周病を有する者の割合の減少	歯周病や歯肉炎の診断ありは36.2%			歯周病に関する知識が少ない			45.4%が歯周病、歯肉炎の診断あり
5-3 乳幼児・学齢期のう蝕のない者の割合の増加		市民意識アンケートでは把握なし。 評価指標において改善傾向					
5-4 口腔機能の維持、向上							25.7%が口腔機能の向上が誤嚥性肺炎の予防に繋がることを知らない
5-5 歯科健診受診率の向上	年1回以上受けている割合が55.7%である						

吹田市健康に関する市民意識アンケート調査2019結果報告書より

イ 分野において課題と言える部分

歯周病

(1) 第2次計画期間（H28～R3）の取組

めざすところ：アルコールの害を理解し、適量飲酒を心がける

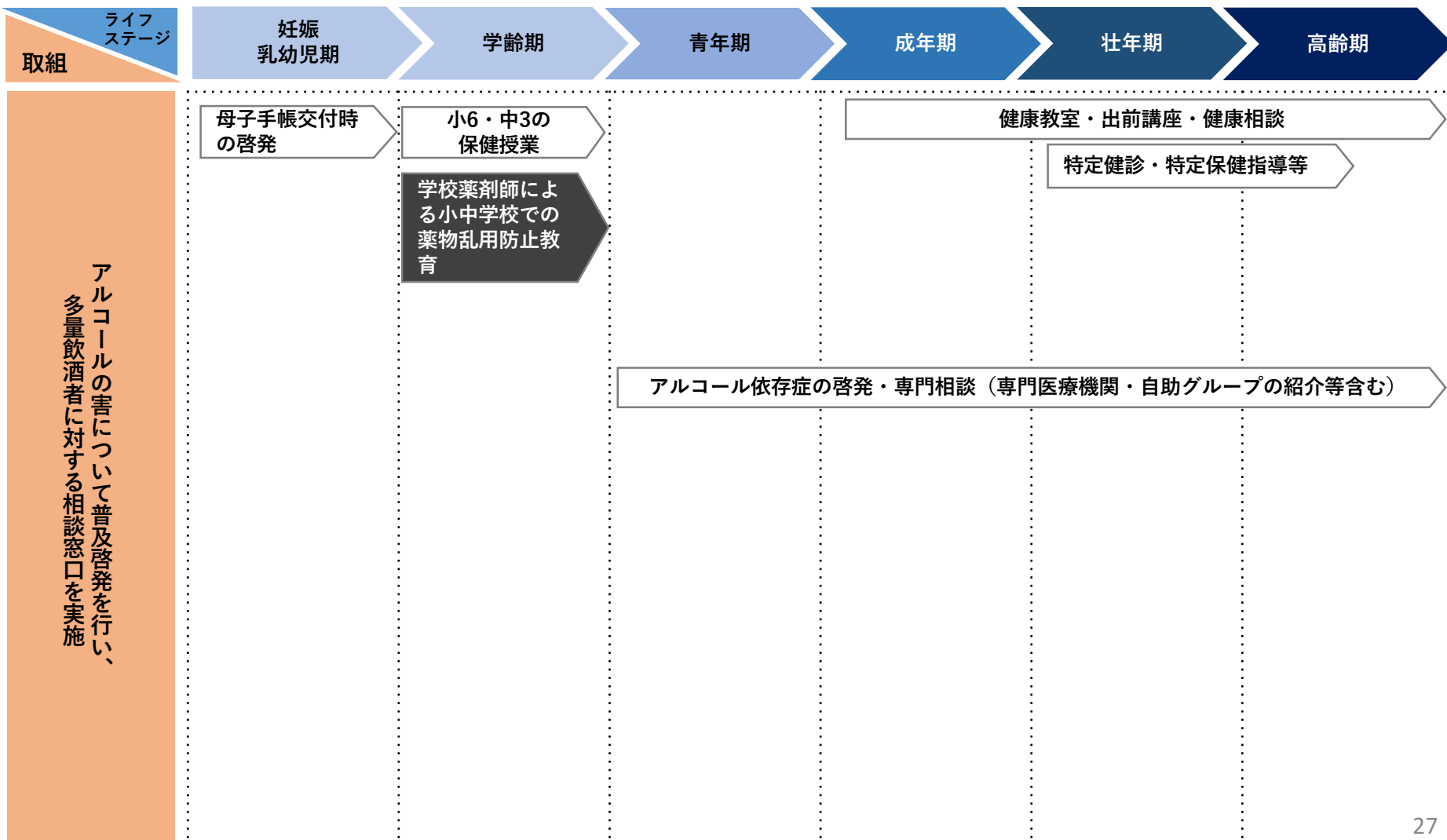
- ・過度の飲酒が及ぼす問題などアルコールについて正しい知識を持ち、適量飲酒に努める。
- ・未成年者や妊産婦は飲酒をしない。

6 アルコール



市の取組

地域団体の取組



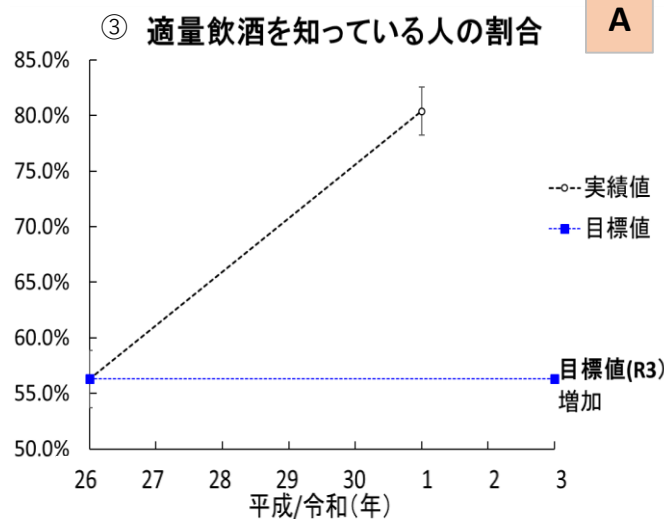
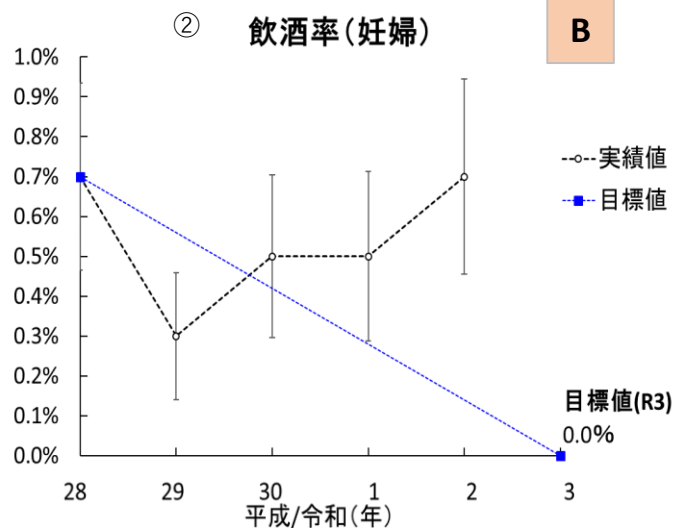
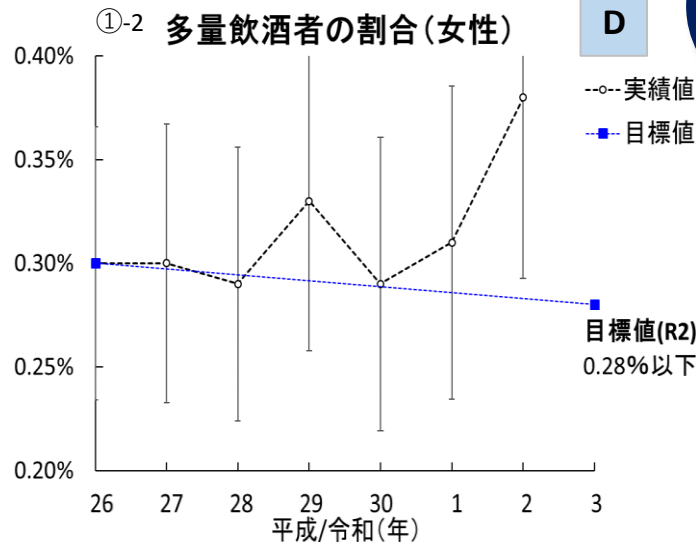
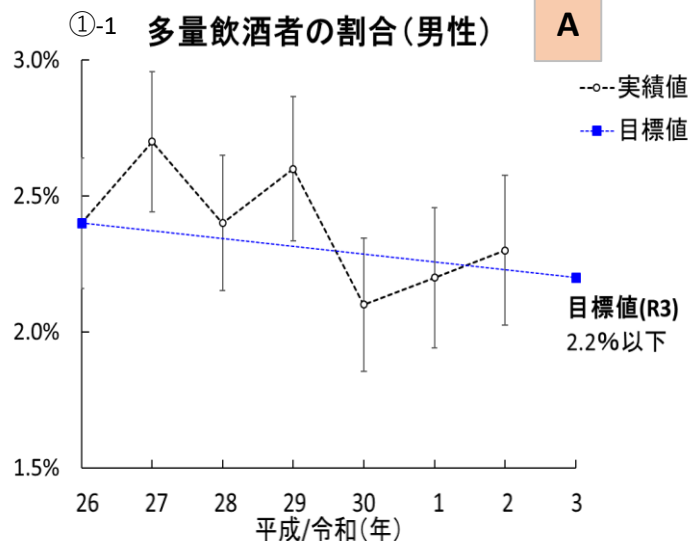


(2-1) 評価指標

			H26 (策定時)	目標値	H29（中間評価）		R1（進捗評価）		R2（最終評価）	
					実績値	評価	実績値	評価	実績値	評価
①	多量飲酒者の割合	男 性	2.4%	2.2%以下	2.6%	D	2.2%	A	2.3%	B
		女 性	0.30%	0.28% 以下	0.33%	D	0.31%	D	0.38%	D
②	妊婦の飲酒率		—	0.0%	0.3%	B	0.5%	B	0.7%	C
③	適量飲酒について知っている 人の割合		56.3%	増加	—	—	80.4%	A	—	—
分野の総合評価					D		B		C	

(2-2) 評価指標経年推移

6 アルコール



グラフは、目標値に対する経年推移を示す。

- ・実線：第2次計画期間で達成をめざす目標値の推移。
- ・点線：実績値の経年変化。

(3) 分野に関する現状課題



ア 市民意識アンケート調査等から見る現状

	全体	妊娠 乳幼児期	学齢期	青年期	成年期	壮年期	高齢期
6-1 妊婦の飲酒率		妊婦の飲酒率 0.5% 前後で推移					
6-2 多量飲酒者の割合	男性では「ほぼ毎日」 女性では「ほとんど 飲まない」が最も多い					60歳代が「ほぼ毎日」 飲酒する人の 割合が最も多い	
6-3 未成年者の 飲酒をなくす	現状把握できず						
6-4 適量飲酒に ついて知っている 人の割合				2人に1人が知らない			

吹田市健康に関する市民意識アンケート調査2019結果報告書より

イ 分野において課題と言える部分

妊婦の飲酒

※中核市移行に伴い、保健所機能を持つことで、精神保健分野（アルコール依存症等）が業務移管されたため、第3次計画では、アルコール依存症の啓発・支援の視点も盛り込む予定。

(1) 第2次計画期間（H28～R3）の取組

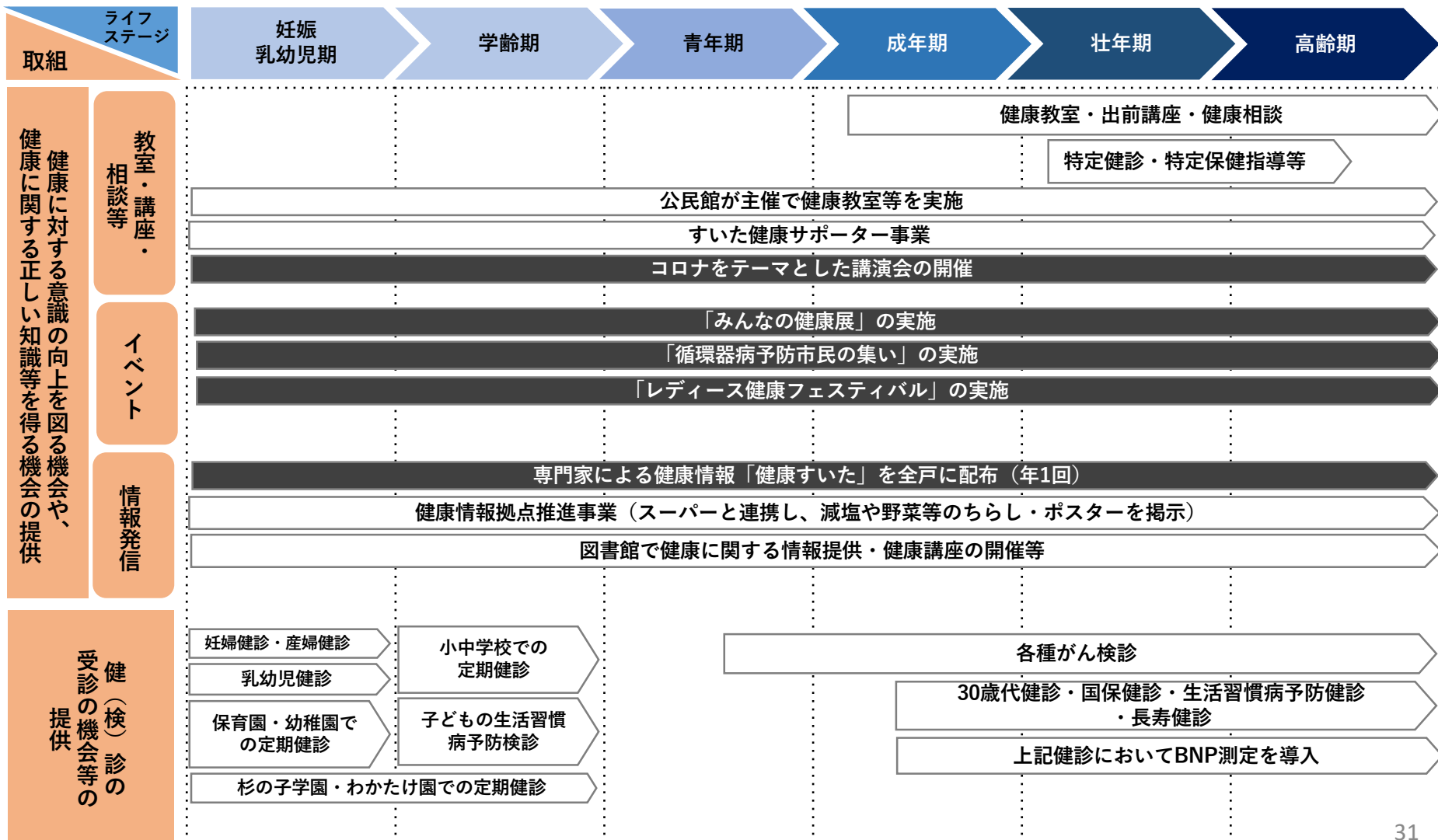
めざすところ：健康づくりに関心を持ち、健康的な生活を送る

- ・健康に関する正しい情報を知っている。
- ・健康診査の必要性を理解して毎年受診する。
- ・健康診査の結果を生かし、生活習慣の改善に向けて行動する。

市の取組

地域団体の取組

7 健康管理

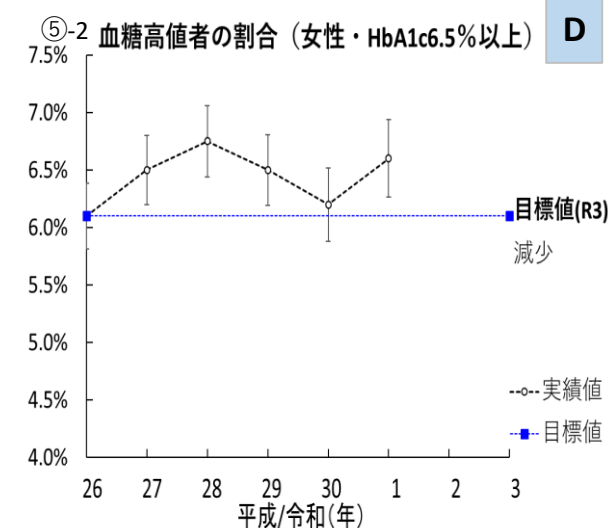
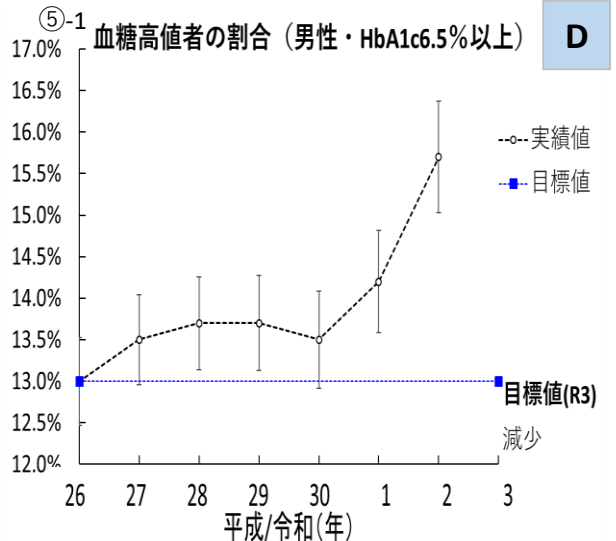
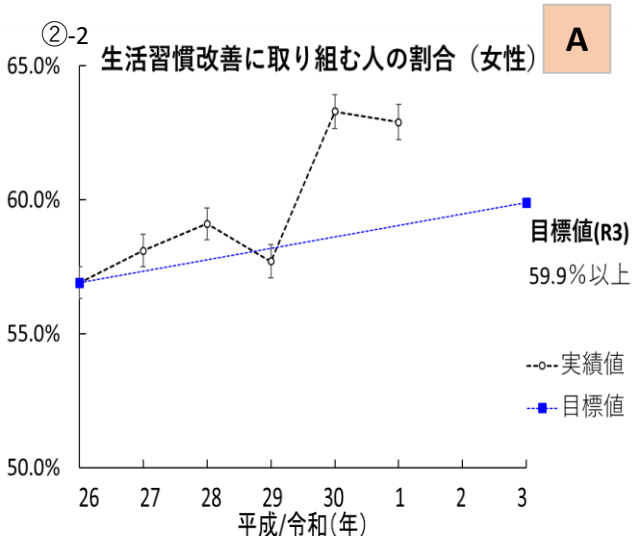
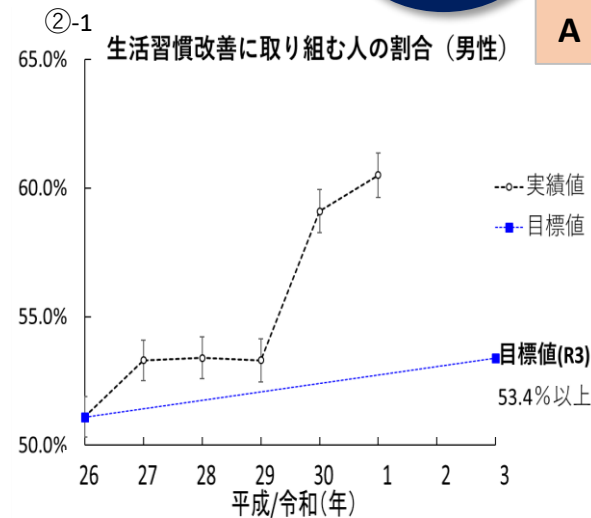
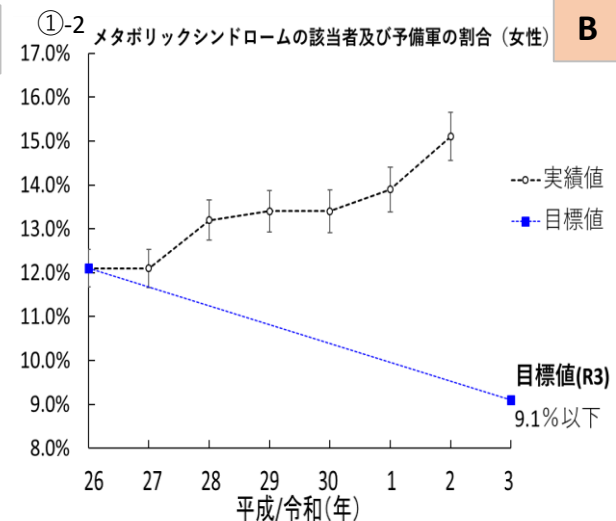
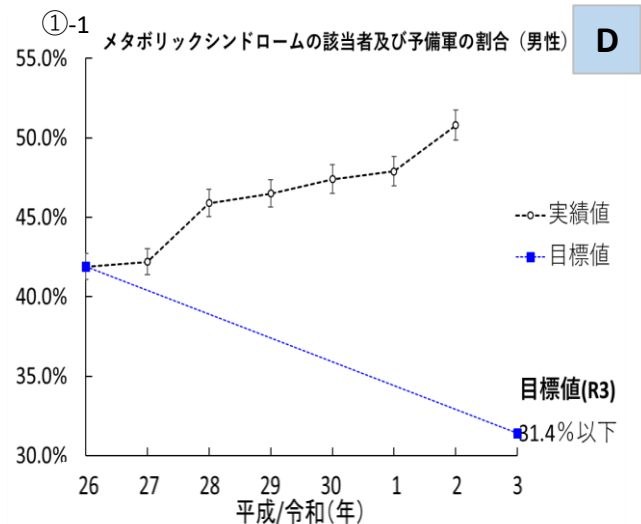


(2-1) 評価指標

			H26 (策定時)	目標値	H29（中間評価）		R1（進捗評価）		R2（最終評価）	
					実績値	評価	実績値	評価	実績値	評価
①	メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の割合	男 性	41.9%	31.4%以下	46.5%	D	47.9%	D	50.8%	D
		女 性	12.1%	9.1%以下	13.4%	B	13.9%	B	15.1%	D
②	生活習慣改善に取り組む人の割合	男 性	51.1%	53.4%以上	53.3%	B	60.5%	A	—	—
		女 性	56.9%	59.9%以上	57.7%	B	62.9%	A	—	—
③	がん検診受診率	胃がん	4.2%	4.9%以上	5.9%	A	6.5%	A	6.6%	A
		肺がん	21.3%	24.5%以上	24.2%	B	20.9%	D	16.7%	D
		大腸がん	26.5%	30.5%以上	28.2%	B	22.6%	D	18.5%	D
		乳がん	43.5%	50.0%以上	48.2%	B	41.0%	D	37.7%	D
		子宮がん	44.5%	50.0%以上	43.7%	D	39.2%	D	37.6%	D
④	保健センターの健康相談件数		1,787件	増加	4,758件	A	3445件	A	2,409件	A
⑤	血糖高値者の割合	男 性	13.0%	減少	13.7%	D	14.2%	D	15.7%	D
		女 性	6.1%		6.5%	D	6.6%	D	7.4%	D
⑥	小・中学生の肥満傾向の割合	小学生・男子	5.0%	減少	4.9%	B	5.5%	D	7.6%	D
		小学生・女子	3.5%		3.9%	D	4.0%	D	4.8%	D
		中学生・男子	5.8%		6.2%	D	6.4%	D	8.1%	D
		中学生・女子	5.9%		4.7%	A	5.0%	A	5.1%	A

分野の総合評価			B	C	D
---------	--	--	---	---	---

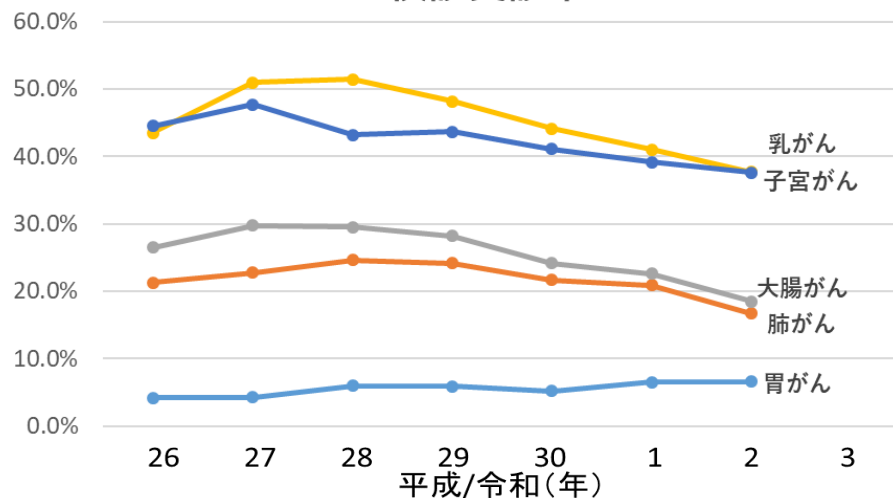
(2-2) 評価指標経年推移



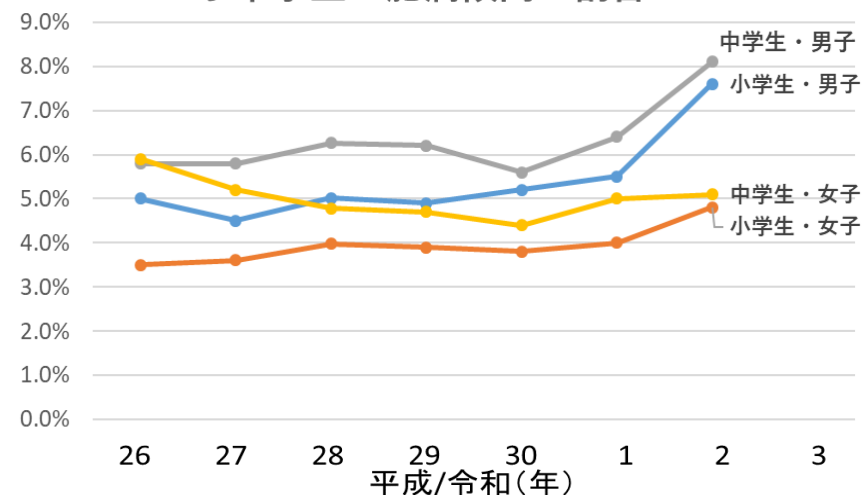
グラフは、目標値に対する経年推移を示す。

・実線：第2次計画期間で達成をめざす目標値の推移。・点線：実績値の経年変化。

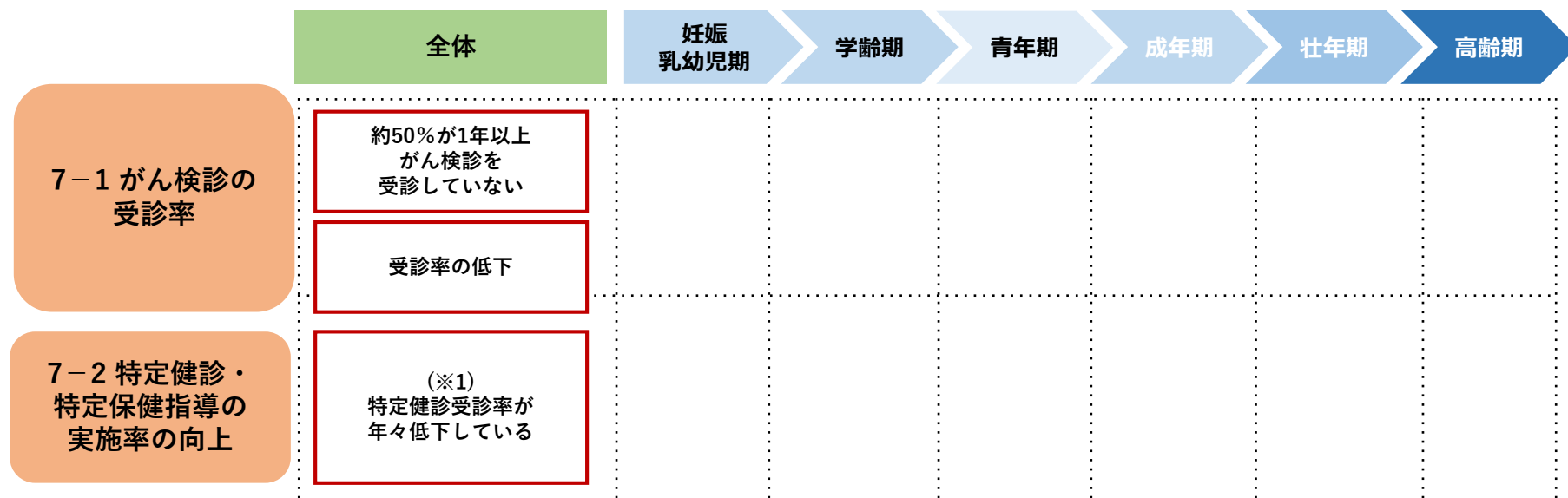
③ がん検診受診率



⑥ 小中学生の肥満傾向の割合



(3) 分野に関する現状課題 ア 市民意識アンケート調査等から見る現状



イ 分野において課題と言える部分

健（検）診受診率の低下

吹田市健康に関する市民意識アンケート調査2019結果報告書より
※1 事業実績値より

(1) 第2次計画期間 (H28～R3) の取組

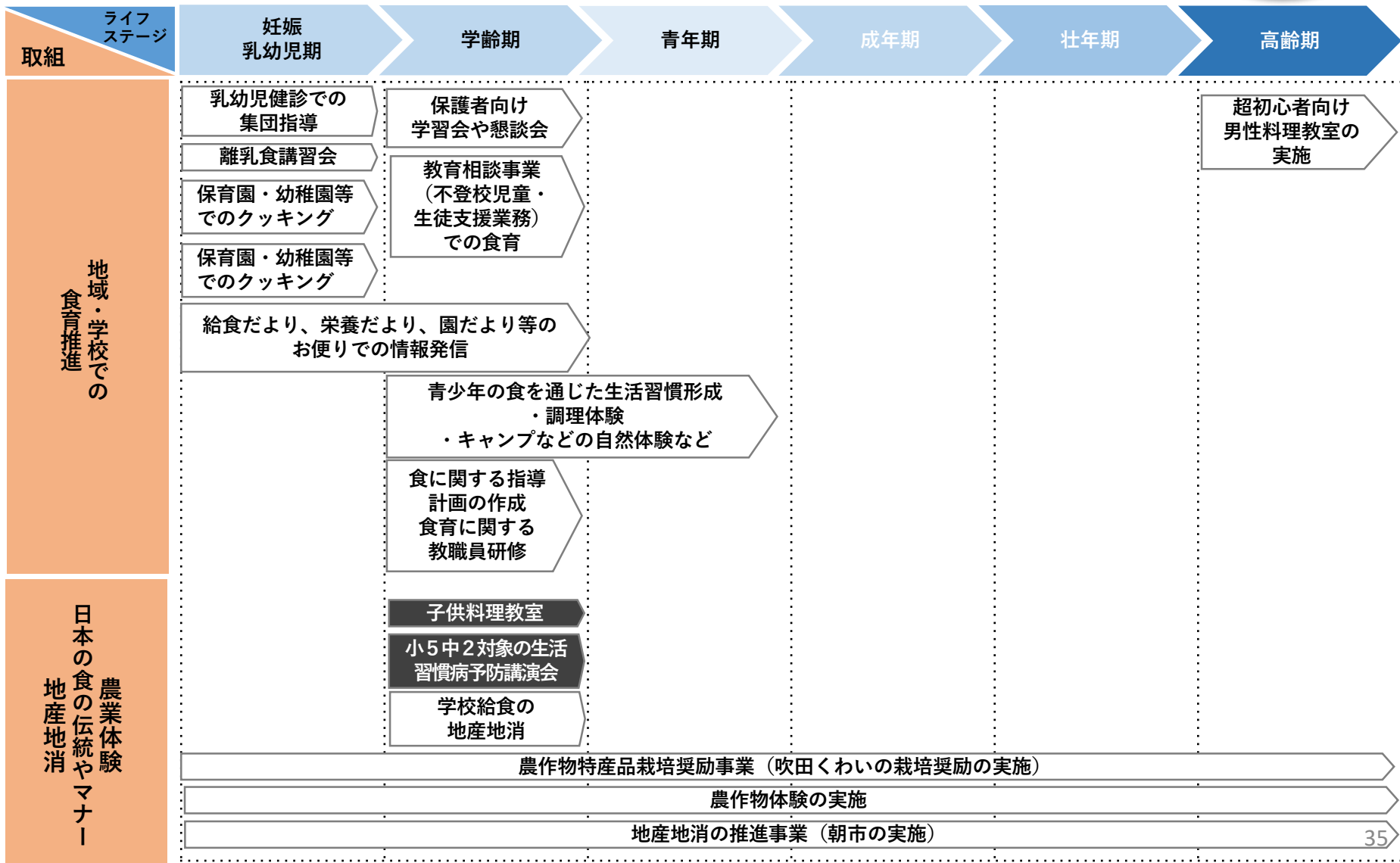
めざすところ：食を楽しみ、感謝して、食べることを大切にする

- ・食の大切さについての理解を深め、意識を向上させる。
- ・食を通したコミュニケーションを図る。

市の取組

地域団体の取組

8食を通じた
豊かな人間形成





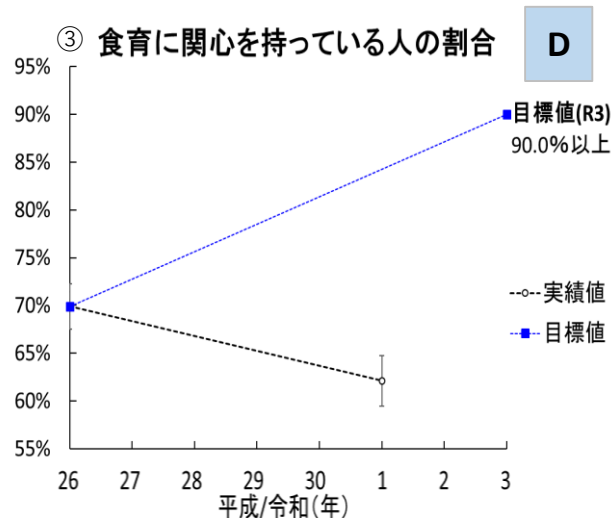
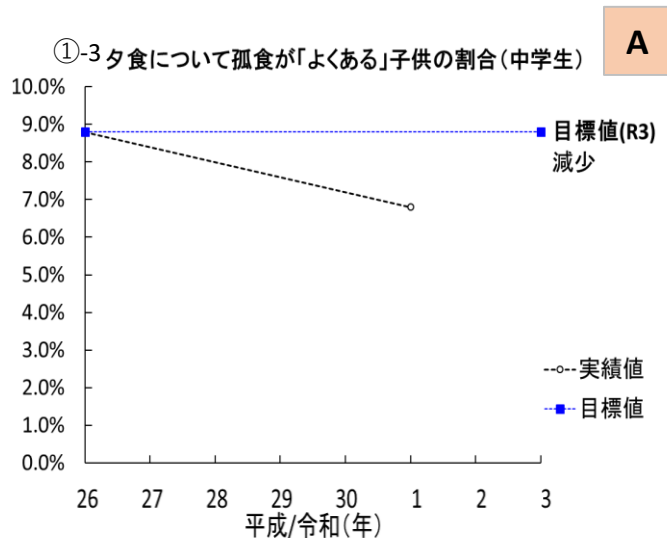
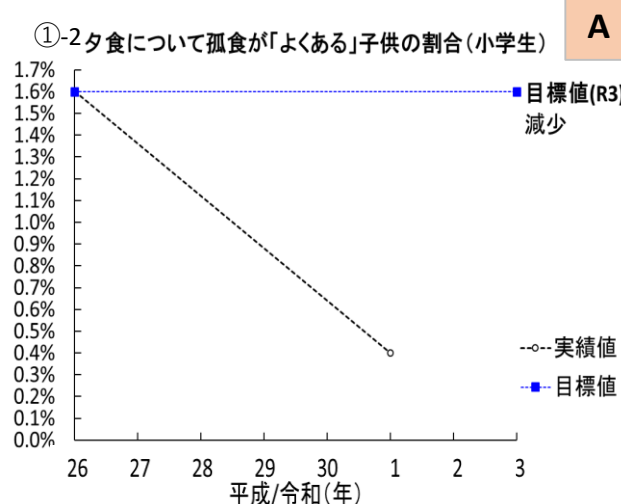
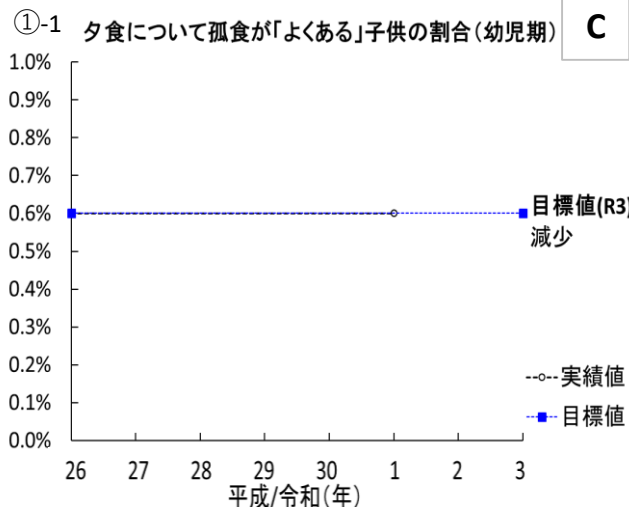
(2-1) 評価指標

			H26 (策定時)	目標値	H29 (中間評価)		R1 (進捗評価)		R2 (最終評価)	
					実績値	評価	実績値	評価	実績値	評価
①	夕食について孤食が 「よくある」子供の割合	幼児期	0.6%	減少	—	—	0.6%	C	—	—
		小学生	1.6%		—	—	0.4%	A	—	—
		中学生	8.8%		—	—	6.8%	A	—	—
②	ふれあい昼食会参加人数		延 10,235人	延 12,000人	延 10,505人	B	延 9,848人	C	延 5,273人	D
③	食育に関心を持っている人の割合		69.9%	90.0% 以上	—	—	62.1%	D	—	—

分野の総合評価			—	B	—
---------	--	--	---	---	---

(2-2) 評価指標経年推移

8食を通じた
豊かな人間形成



グラフは目標値に対する経年推移を示す。

- ・ 実線：第2次計画期間で達成をめざす目標値の推移。
- ・ 点線：実績値の経年変化。

(3) 分野に関する現状課題



ア 市民意識アンケート調査等から見る現状

	全体	妊娠 乳幼児期	学齢期	青年期	成年期	壮年期	高齢期
8-1 食育について	食育に関心がある人の割合は62.1%であり 前回調査より減少						
8-2 孤食の状況	夕食をひとりで食べる ことが「よくある」 子供の割合は1.8%。						

吹田市健康に関する市民意識アンケート調査2019結果報告書より

イ 分野において課題と言える部分

食育に関心がある割合が前回調査より減少

※食育の分野は家庭・地域での食育推進、地産地消など多岐に渡るため、
庁内で今後、現状・課題の整理を行う予定。